

牛久市子ども読書活動推進計画(第3次)



令和 5 年 3 月

牛久市教育委員会

はじめに

牛久市では平成25年3月に、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、すべての子どもが読書活動を幼少期から大人になるまで生涯にわたり行うことで、より豊かな人生を送れるようにするために「牛久市子ども読書活動推進計画」を策定、平成30年3月には計画の見直しを実施し「牛久市子ども読書活動推進計画（第2次）」を策定しました。

今回、第2次計画に沿って展開してきた事業の結果を踏まえ、「牛久市子ども読書活動推進計画（第3次）」を策定いたしました。

これまで、牛久市では読み聞かせボランティアの協力を得て、様々なおはなし会、赤ちゃんに本との出会いを提供する「ブックスタート」、そしてNPO法人「リーブルの会」との協働による図書館運営を通じた子どもの読書活動の推進など、様々な活動を充実させてきました。

また、小中高等学校においては、平成29年に新しい学習指導要領が公示されました。その中で、言語活動等をより一層充実させるため学校図書館の計画的な利用を進めるとともに、地域の図書館などの施設も積極的に活用し、資料活用や情報の収集などの学習活動を充実させることを掲げています。

こうしたことを受け、市内全校に配置しております専門資格を持った学校司書の活動が、読み聞かせや読書活動の支援にとどまらず、学校図書館資源共有ネットワークの推進事業を活用した、児童生徒の読書活動の活性化にも大きな役割を担っています。

第2次計画時の新しい事業であった「読書手帳」の普及により図書館利用を促すほか、うちどく（家読）の事業を支援することで家族を巻き込んだ読書活動の推進も図っています。

本計画はこれらの活動を体系的に取りまとめるとともに、子どもたちの読書活動をさらに推進するための方針を明らかにしたものです。

今後も、地域や子育て支援施設、学校との連携をより一層進めながら、事業の積極的な推進を図ってまいります。

最後に、この計画の策定にあたってアンケートのご協力をいただいた、市内各保育園・幼稚園・認定こども園、小・中・義務教育学校、高等学校関係者の皆様はじめ、図書館協議会委員ならびにワーキンググループの皆様に、心から御礼申し上げます。

令和5年3月

牛久市教育委員会
教育長 染谷郁夫

もくじ

第1章 計画策定の趣旨

I 計画の基本的な考え方

1	計画策定の趣旨	1
2	計画策定の背景	1
3	子どもの読書活動の意義	2
4	子どもの読書活動に関する国、県の動向	2
5	牛久市の読書状況	3

II 計画の概要

1	計画の目的	1 4
2	計画の位置づけ	1 4
3	計画の対象	1 5
4	計画の期間	1 5
5	計画の基本理念	1 5
6	計画の基本方針	1 5
7	計画の体系	1 6

第2章 子どもの読書活動推進のための具体的な取り組み

1	家庭	1 7
2	保育園・幼稚園・認定こども園	2 0
3	小・中・義務教育学校	2 1
4	高等学校	2 4
5	図書館	2 6
6	読み聞かせボランティア・地域読書活動推進団体	3 2
7	実施施策の数値目標	3 3

第3章 方策の推進体制の整備・充実

1	関係機関の連携・協力	3 4
2	啓発、広報などの推進	3 4
3	推進計画の進行管理・財政上の措置	3 4

【資料編】

資料 1	令和 4 年「読書に関するアンケート調査」実施結果・・・・・・・・	3 6
資料 2	令和 4 年児童生徒アンケート実施結果・・・・・・・・	3 7
資料 3	令和 4 年保育園・幼稚園等保護者アンケート実施結果・・・・・・・・	4 4
資料 4	令和 4 年小学生・中学生等保護者アンケート実施結果・・・・・・・・	5 1
資料 5	関係機関施設等一覧・・・・・・・・	5 7
資料 6	子どもの読書活動の推進に関する法律・・・・・・・・	5 9
資料 7	牛久市図書館協議会委員名簿・・・・・・・・	6 1
	牛久市子ども読書活動推進計画（第 3 次）策定ワーキング委員名簿・・・	6 1

第1章 計画策定の趣旨

I 計画の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

この計画は、市内の子どもの読書活動を推進するため、成長に応じた読書活動を支援し、総合的に子どもの読書環境を整備していこうとするものです。本市においては、子どもの視点に立った読書推進を図るため、平成30年3月策定の「牛久市子ども読書活動推進計画（第2次）」（以下「第2次計画」という。）を改訂し、「牛久市子ども読書活動推進計画（第3次）」（以下「第3次計画」という。）を策定することといたしました。

2 計画策定の背景

テレビやインターネットなど、情報化の進展にはめざましいものがあり、子どもたちを取り巻く生活環境は大きく変化しています。大量の情報を瞬時に入手でき、様々な情報が氾濫する中で子どもの「読書離れ」が指摘されています。

全国学校図書館協議会が子どもの読書の実態や読書環境を調査する「第67回学校読書調査」によりますと、令和4年5月、1ヶ月間の平均読書冊数は、小学生は13.2冊（前年同期：12.7冊）、中学生は4.7冊（前年同期：5.3冊）、高校生は1.6冊（前年同期：1.6冊）となっており、前年度に比べ、小学生は微増、中学生は微減、高校生は横ばいの状況となっています。

また、5月1か月間に1冊も本を読まなかった児童生徒の割合は、小学生は6.4%（前年同期：5.5%）、中学生は18.6%（前年同期：10.1%）、高校生は51.1%（前年同期：49.8%）となっており、前年度調査に比べすべての年代で増加となっています。

このような現状の中で、家庭や地域、学校や図書館が一体となって子どもの読書活動を推進していく必要があります。

3 子どもの読書活動の意義

近年、世界を襲った未曾有の疫病の流行により世の中は大きく変わること余儀なくされ、子どもたちを取り巻く環境や、彼らが抱える問題もまた、変わってきています。

読書活動は、子どもの国語力を向上させ、語彙力を豊富にし、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにするなど、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものです。それと同時に、子どもの時分に家族と触れ合うこと、友人と遊ぶこと、勉学に励むことも、どれも等しくかけがえのない体験であることに違いありません。何を経験するか、継続していくか、子どもたちは選ぶことができます。その数ある選択肢の中に「読書」という選択肢が生涯にわたって残り続けることで、子どもたちがより豊かに生きていくための力になると考えます。

4 子どもの読書活動に関する国、県の動向

【国の動向】

国では平成 11 年 8 月、子どもの読書活動を支援するため、平成 12 年を「子ども読書年」とする決議がなされました。また平成 12 年 5 月には国立国会図書館の支部図書館として「国際子ども図書館」が開館し、児童書専門図書館として子どもの読書にかかわる多様な活動を支援しています。

平成 13 年 12 月には、子どもの読書活動の推進に関する基本理念などを定めた「子どもの読書活動の推進に関する法律」を公布・施行し、この法律の第 8 条第 1 項の規定に基づき、平成 14 年 8 月に、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（以下「基本的な計画」という。）を策定し、おおむね 5 年間にわたる施策の基本的方向と具体的な方策を明らかにしています。

その後、平成 20 年 3 月に第二次「基本的な計画」、平成 25 年 5 月に第三次「基本的な計画」、平成 30 年 4 月に第四次「基本的な計画」が策定されています。

【県の動向】

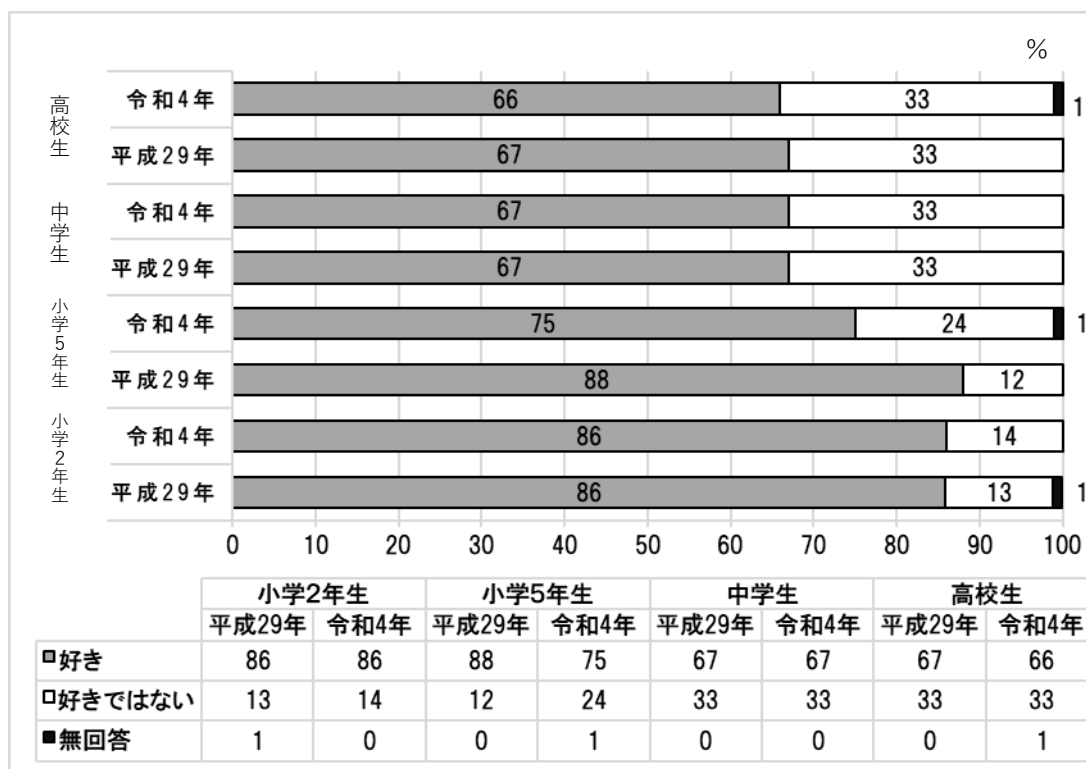
県においては、平成 15 年 8 月に開催された「いばらき子ども読書議会」における、子どもからの読書活動に関する提案を踏まえつつ平成 16 年 3 月に「いばらき子ども読書活動推進計画」（以下「推進計画」という。）を策定し、平成 22 年 1 月には第二次「推進計画」、平成 27 年 3 月には第三次「推進計画」、令和 4 年 3 月に第四次「推進計画」が策定されています。

5 牛久市の読書状況

本市においては、令和 4 年 9 月に市内の子どもたちの読書環境の現状を把握するために「読書に関するアンケート」（2,824 件回収）を実施しました。アンケートは市内保育園・認定こども園 2 歳児と 5 歳児の保護者、市内幼稚園 5 歳児の保護者、市内小学校 2 年生、5 年生の児童及びその保護者、市内中学校 2 年生(義務教育学校 8 年生を含む)の生徒及びその保護者、市内高校 2 年生の生徒を対象に行い、第 2 次計画策定時に行ったアンケート（平成 29 年 7 月実施、3,099 件回収）と主な質問を比較しました。

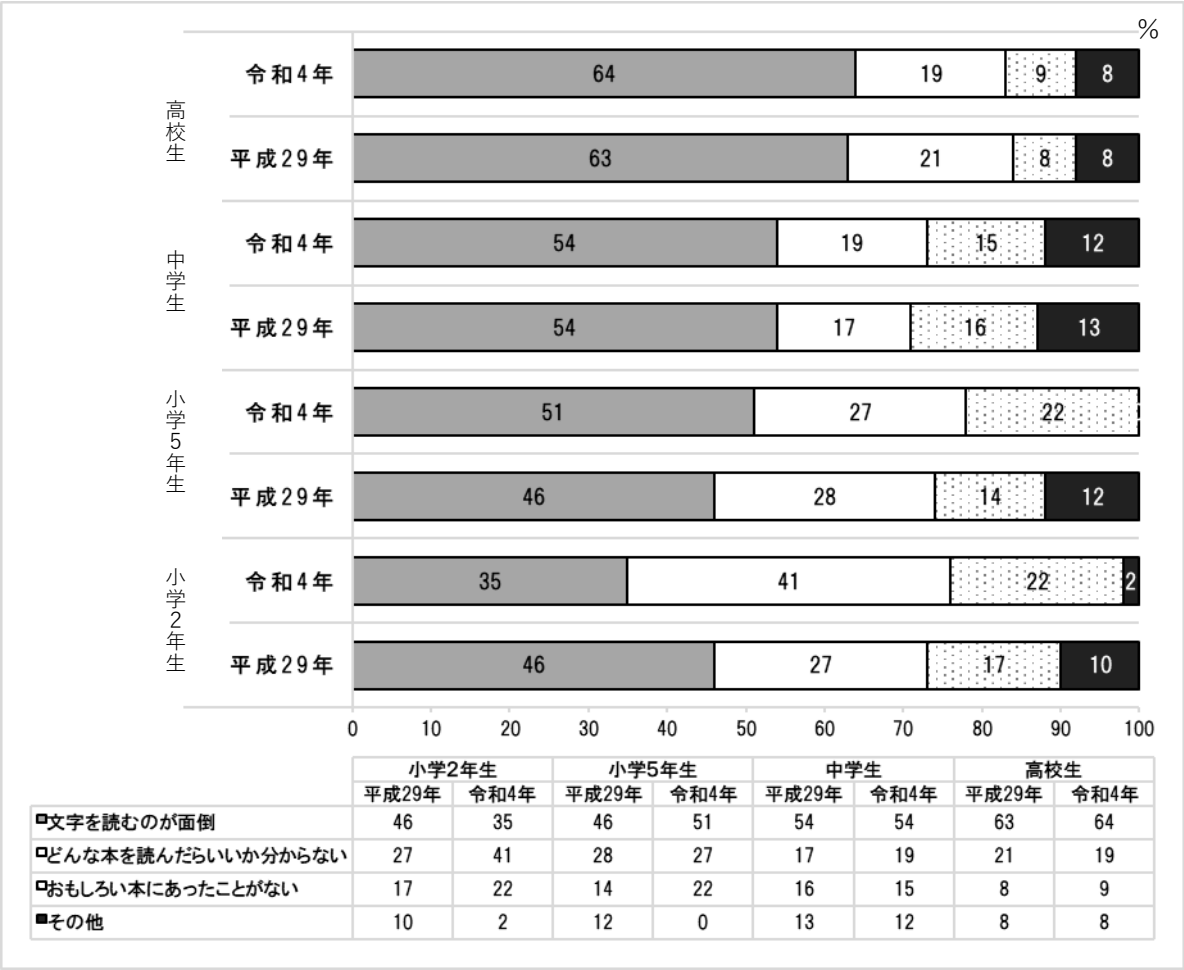
◇児童生徒に対する質問

1 あなたは、本を読むことが好きですか？



小学 2 年生は、平成 29 年と令和 4 年に際立った差異はなく、依然として高い水準で「本を読むのが好き」であるという結果となりました。反対に小学 5 年生では、「本を読むのが好き」と答えた児童の割合が平成 29 年の 88% に対し、令和 4 年は 75% と、大きく減少しています。平成 24 年から平成 29 年にかけて減少傾向にあった中高生ですが、小学 2 年生と同様に今回は割合に大きな変動はありませんでした。

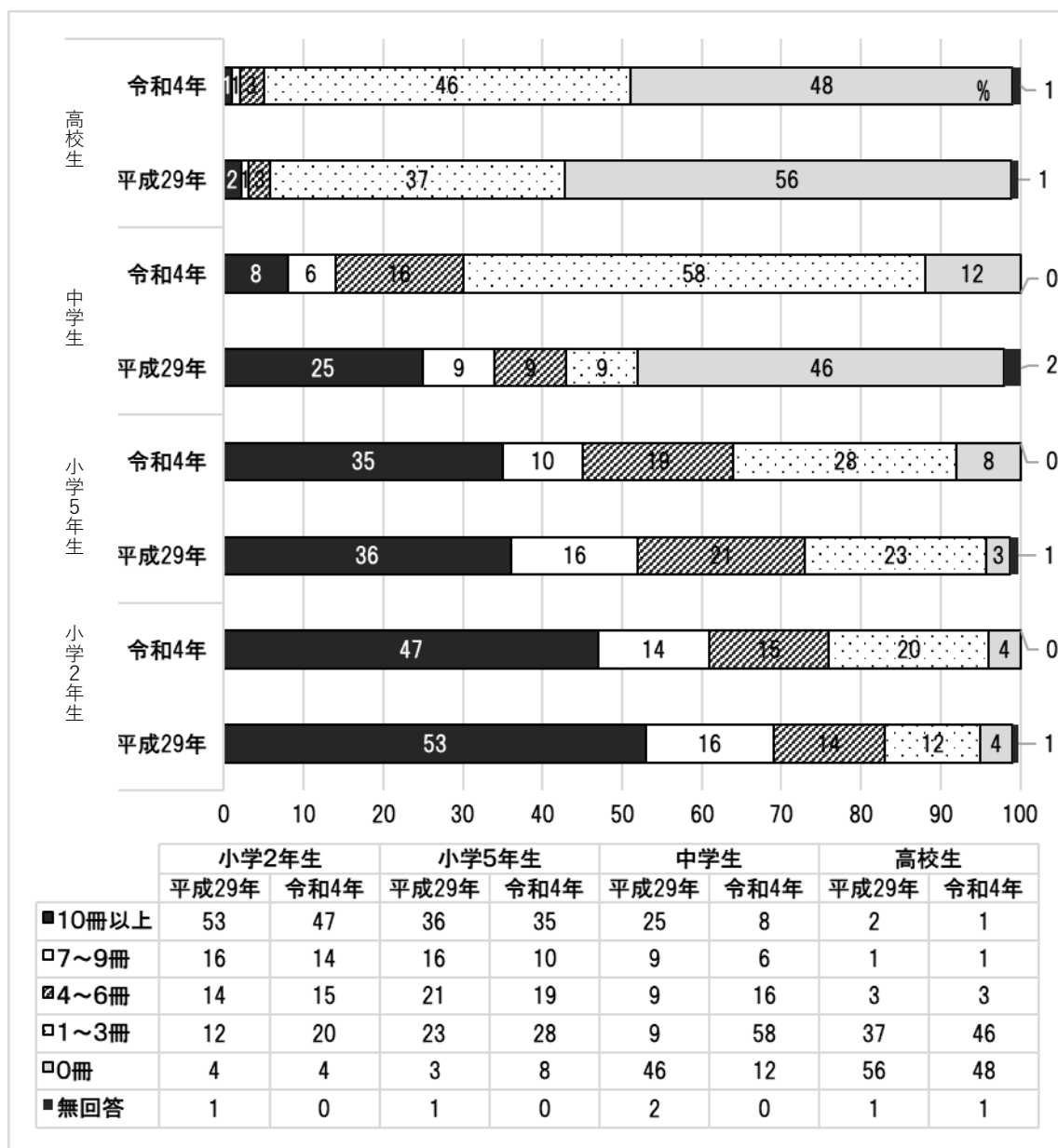
2 「好きではない」と答えた人だけにお聞きます。
好きではない理由は何ですか？



本が好きではない理由として、「文字を読むのが面倒」とあるとの回答が小学5年生以上の年代においてもっとも大きい割合を占めています。かつ、その傾向は年齢が上がるにつれ強まっており、これは平成29年から変化がありません。小学2年生は、唯一「文字を読むのが面倒」とする割合が下がった学年ですが、一方で「どんな本を読んだらいいかわからない」が14ポイント、「おもしろい本にあったことがない」が5ポイントと増加しています。「おもしろい本にあったことがない」は小学5年生でも8ポイント増加と、読書を倦厭させる課題として存在感を増しています。

その他の回答として「本に興味がない」「読書以外に楽しみがある」「好きなジャンルの本を読みつくしてしまったから」などが挙げられました。

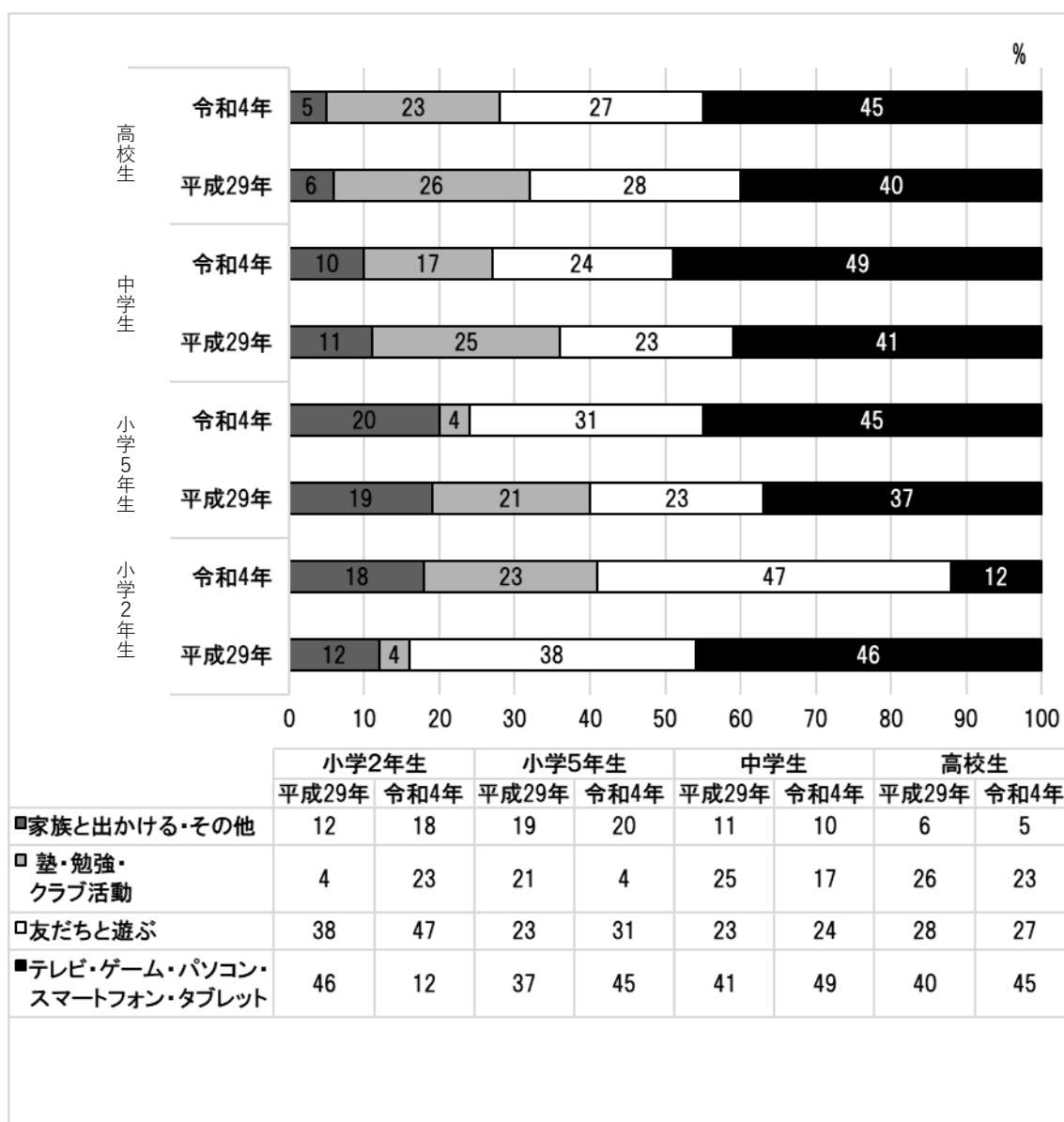
3 あなたは、本をこの1ヶ月に何冊読みましたか？（マンガ・雑誌は除く）



1ヶ月の読書冊数が10冊以上であった割合が、小学2年生で53%から47%と6ポイント、中学生で25%から8%へと大きく減少しています。

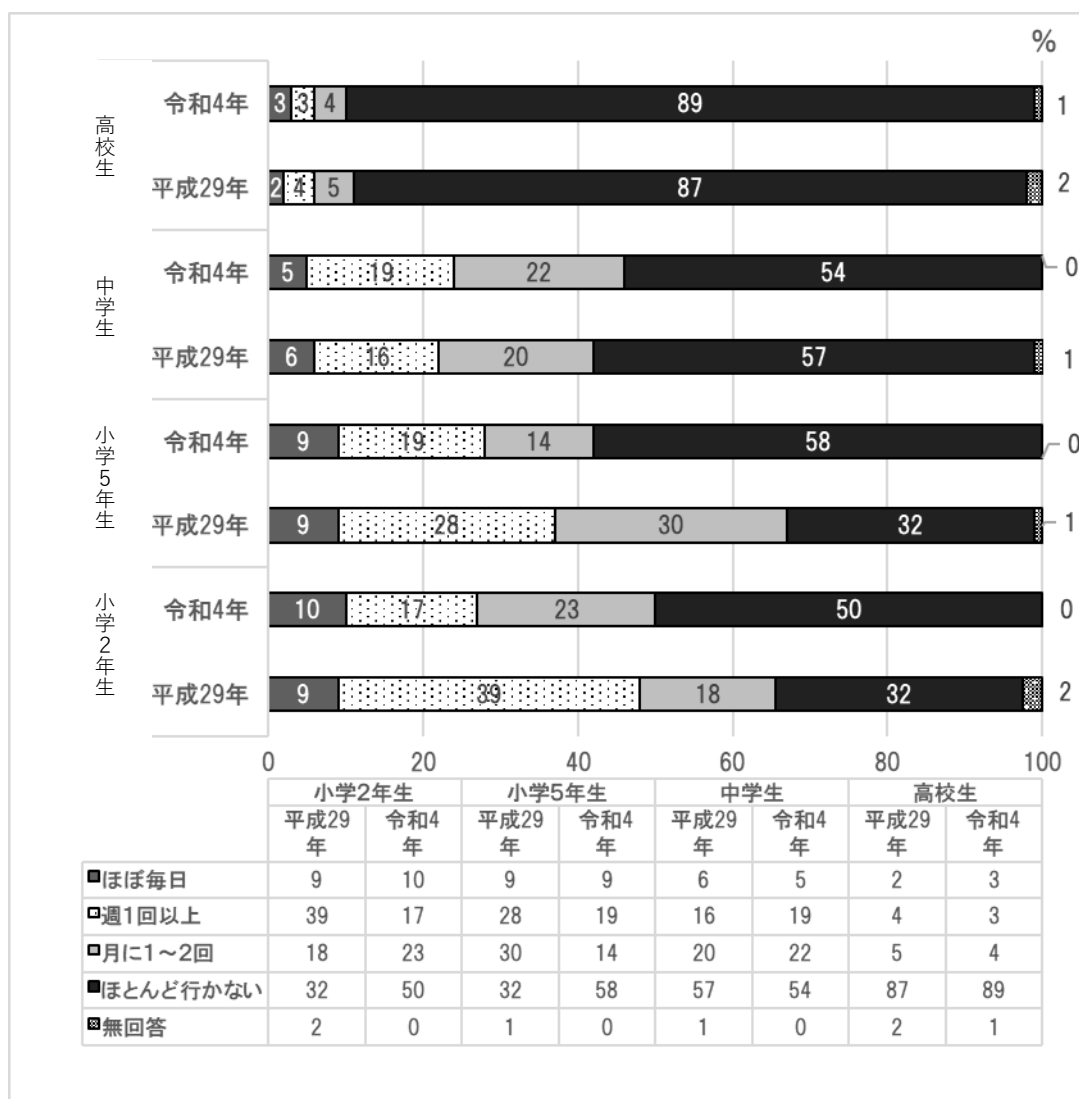
一方で、1ヶ月間に読んだ冊数が0冊であると回答した割合（不読率）は、中学生で46%から12%へ、高校生で56%から48%へと変化がありました。特に中学生は34ポイント減少と、平成29年から大きな差異が見られました。たくさんの本を読む児童生徒が減った代わりに、1冊も本を読まない児童生徒が減少していることが分かります。

4 「0冊（読まなかった）」と答えた人だけにお聞きます。
読書よりしたいことは何ですか？



読書よりしたいことについて、「テレビ・ゲーム・パソコン・スマートフォン・タブレット（平成29年版では「携帯電話」）」が小学5年生、中学生、高校生では増加している一方、小学2年生では46%から12%へと34ポイント減少しています。代わりに「塾・勉強・クラブ活動」が19ポイント、「友だちと遊ぶ」が9ポイント増加しました。また、小学5年生の「塾・勉強・クラブ活動」が17ポイント減と大幅な減少となったことも特筆すべき点です。

5 あなたは休み時間や放課後に、学校図書館へ行きますか？

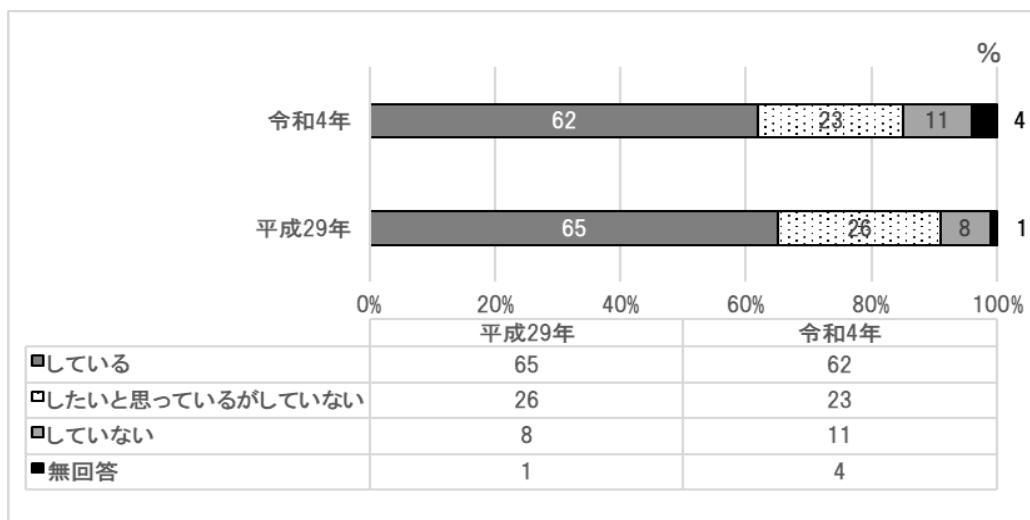


学校図書館の利用についての問いでは、「ほとんど行かない」と答えた児童生徒が小学2年生では18ポイント、小学5年生では26ポイントとそれぞれ大きく増加しています。中学生・高校生が学校図書館に行く頻度の割合は平成29年の調査と同程度の回答となりました。

◇保護者に対する質問

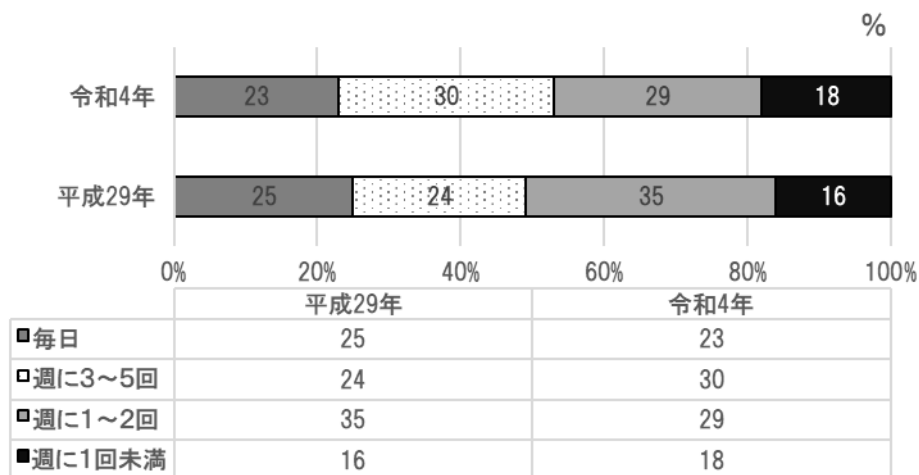
保育園・幼稚園・認定こども園の保護者に対する質問

6 ご家庭でお子さんに読み聞かせを行っていますか？



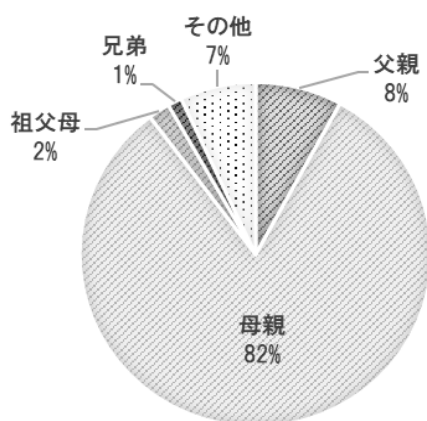
園児のいる家庭で「読み聞かせを行っている」割合は、平成 29 年が 65%、令和 4 年が 62%と 3 ポイント減少しています。下がり幅は少ないものの、この減少傾向は平成 24 年から続いています。

7 ご家庭でどのくらいの頻度で読み聞かせを行っていますか？

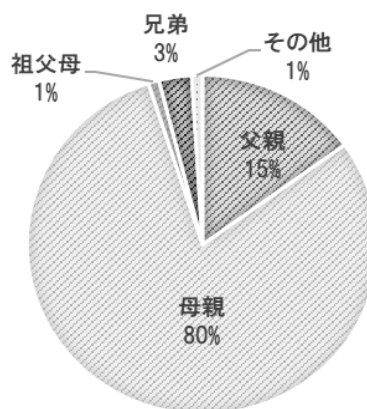


平成 29 年と比べ、読み聞かせを行っている頻度が「毎日」であるとした回答が 2 ポイント、「週に 1～2 回」が 6 ポイント減少し、「週に 3～5 回」が 6 ポイント、「週に 1 回未満」が 2 ポイント増加しています。

8 ご家庭で、だれが一番多く読み聞かせを行っていますか？



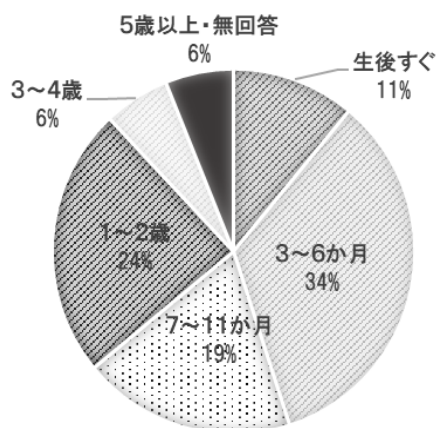
平成29年



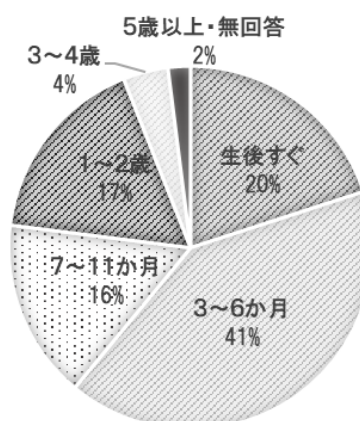
令和4年

園児のいる家庭において、読み聞かせを一番多く行っているのは「母親」で、平成29年は82%、令和4年は80%と、それぞれ8割を超える高い水準です。次いで多いのは平成29年、令和4年ともに「父親」ですが、平成29年に比べ、令和4年では7ポイント増加しています。コロナ禍の影響もあってか、祖父母やその他の親類などの割合が減っています。

9 ご家庭でいつ頃から読み聞かせを始めましたか？



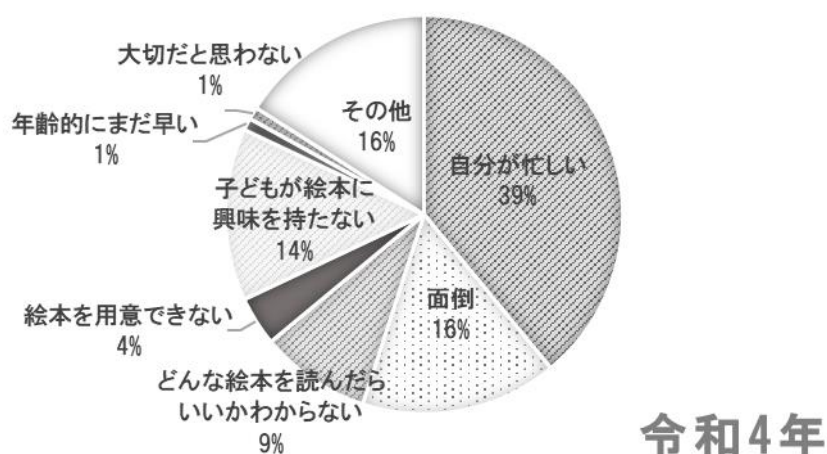
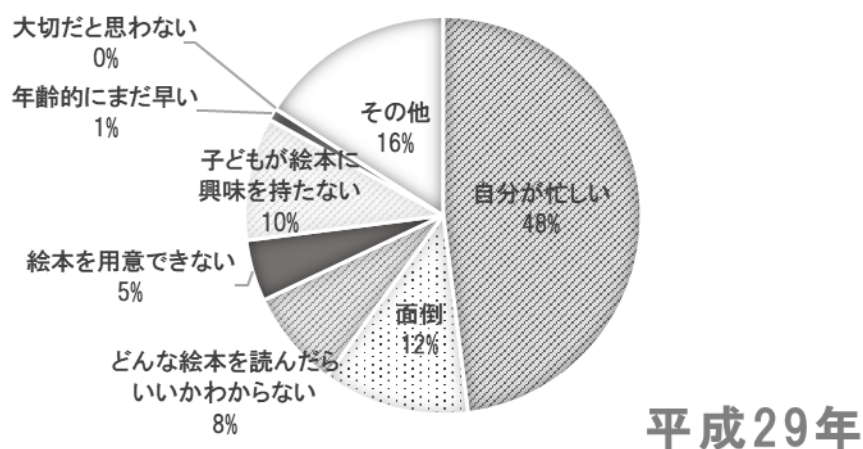
平成29年



令和4年

読み聞かせを始めた時期について「生後すぐ」と答えた人は平成29年が11%、令和4年が20%と増加しており、「3～6か月」と合わせると、生後半年以内に約6割の人が読み聞かせを始めています。1年未満で読み聞かせを始めている人は、平成29年で64%、令和4年では77%と、いずれも増加傾向にあります。

10 ご家庭で、読み聞かせをしていない理由は何ですか？

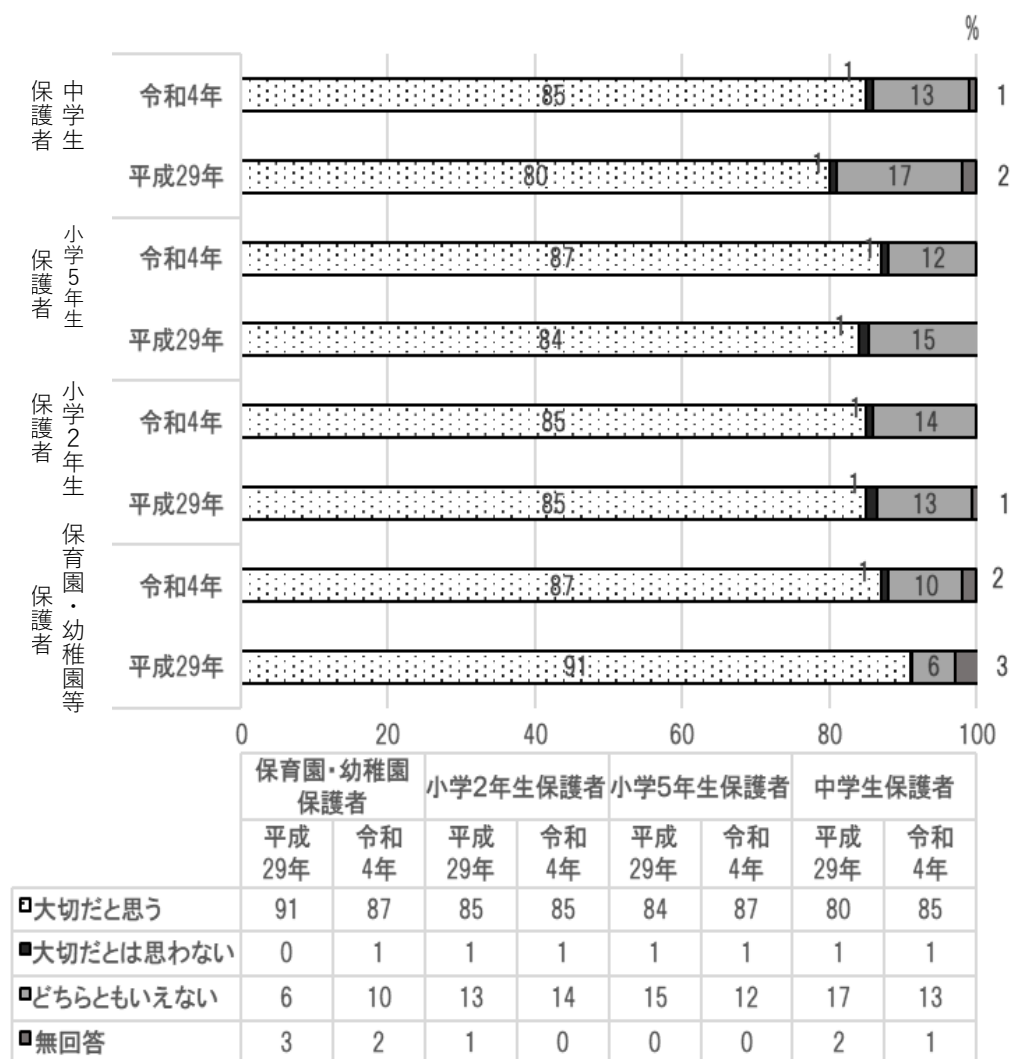


読み聞かせをしていない理由は、「自分が忙しい」が平成 29 年は 48%、令和 4 年 39%で、もっとも多い割合を占めています。増加している項目として「面倒」「子どもが絵本に興味を持たない」「大切だと思わない」がありました。また、「絵本を用意できない」、「子どもが絵本に興味を持たない」が僅かながら増加しています。

その他の意見として、2 歳児の保護者からは「タブレット端末に夢中」「ひとりの子どもに読んでいると他のきょうだいに邪魔をされる」、5 歳児の保護者からは「子どもが自分で読みたがる」「興味の対象がテレビや動画」「子どもも忙しい」「(子どもの) 好きな本が分からない」などの理由が挙げられました。

保育園・幼稚園・認定こども園及び小・中学生の保護者に対する質問

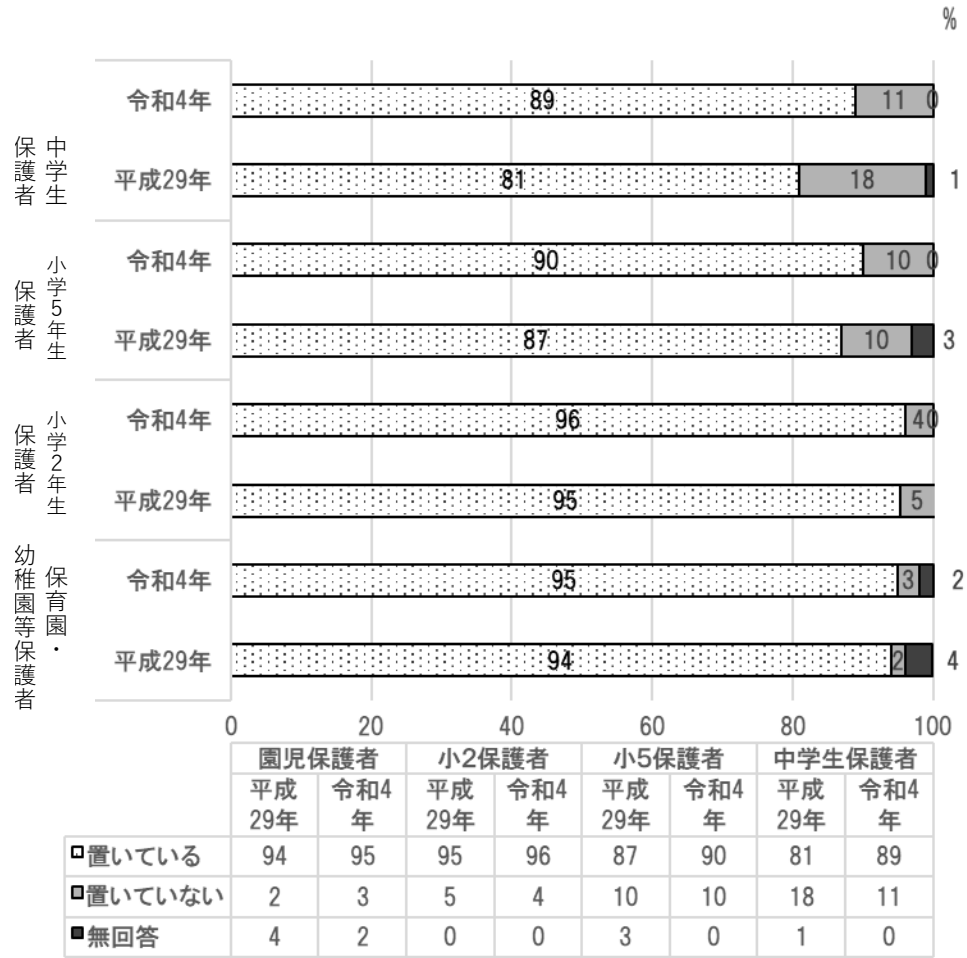
11 読み聞かせをすることは、大切だと思いますか？



令和4年に読み聞かせをすることは「大切だと思う」と答えた保護者は、保育園・幼稚園から中学生までそれぞれ、87%、85%、87%、85%であり、依然として8割を超えています。経年の変化としては、「大切だと思う」保育園・幼稚園等の保護者の割合が微減し、中学生保護者の割合が微増したことで、以前は学年が上がるにつれて減少傾向にあった「大切だと思う」割合が全学年を通して横ばいになりました。

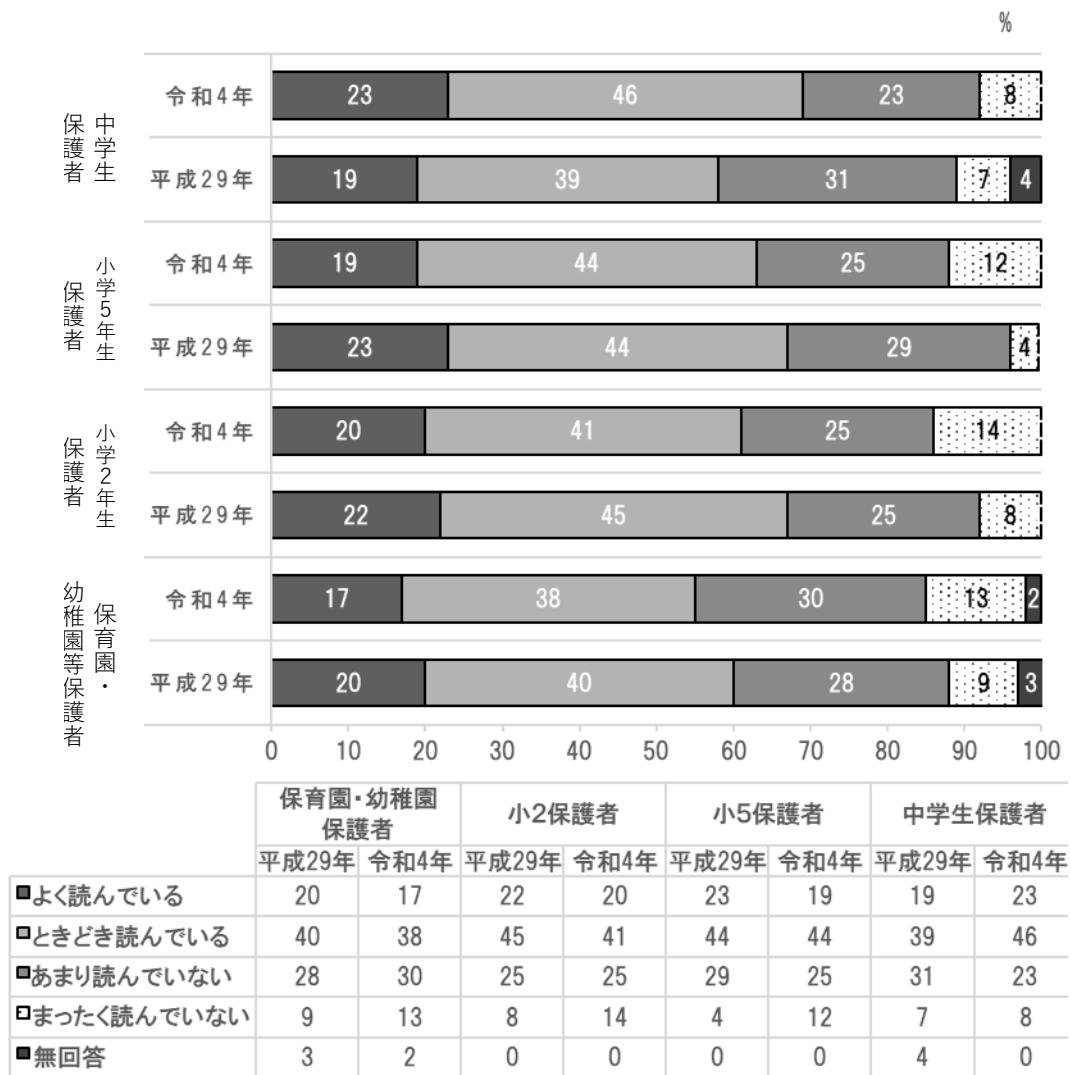
また、「大切だとは思わない」の割合は変わらず1%以下と、非常に低い割合で推移していることから、18歳以下の子どもがいる家庭では、読み聞かせに強い関心があることが分かります。

12 あなたのご家庭では、お子さんがすぐ手に取れる所に本を置いていますか？



家庭において「子どもがすぐ手に取れる所に本を置いているか」という問いに対し、令和4年では、保育園・幼稚園から中学生の家庭でそれぞれ95%、96%、90%、89%と、約9割の家庭ですぐ手に取れる所に本を置いていると答えています。平成29年時点でも高い水準でしたが、令和4年には子どもの年齢にかかわらず、家庭内でいつでも本が手に取れる割合がさらに増加しています。

13 あなたやご家族の方は、本を読んでいますか？（％）



「あなたやご家族の方は本を読んでいますか」という問いに対し、平成 29 年と令和 4 年を比較すると、全体を通じて「よく読んでいる」が減少傾向にあります。唯一例外として中学生保護者が 19％から 23％へ 4 ポイント増加しています。

「よく読んでいる」「ときどき読んでいる」（総合して「読んでいる人」の割合）と答えたのは、平成 29 年でそれぞれ 60％、67％、67％、58％であったのと比べ、令和 4 年では、保育園・幼稚園児から中学生まで 55％、61％、63％、69％と、全体的に減少傾向にありながら、「よく読んでいる」の傾向と同じく中学生保護者のみ増加した結果になりました。

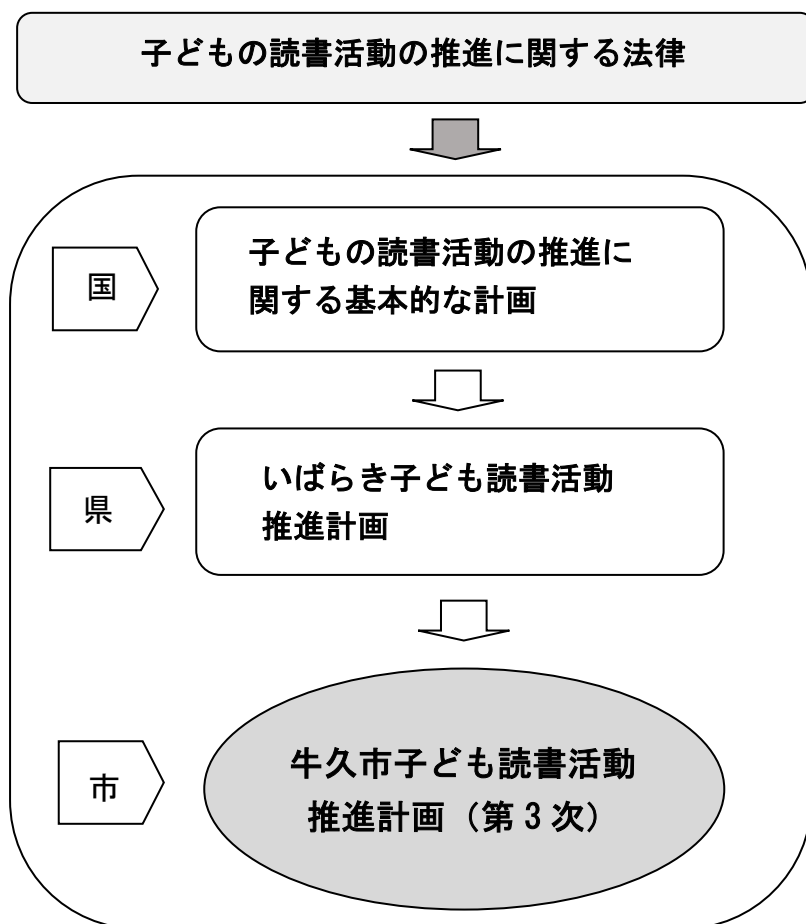
Ⅱ 計画の概要

1 計画の目的

すべての子どもが豊かな読書活動を経験する機会を得て、生涯において自主的な読書活動を行うことができ、より豊かな人生を送れるよう支援します。

2 計画の位置づけ

この計画は「子どもの読書活動の推進に関する法律」第 4 条及び第 9 条第 2 項に基づき、国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」及び茨城県の「いばらき子ども読書活動推進計画」を基本とし、牛久市においては平成 25 年 3 月策定の「牛久市子ども読書活動推進計画」及び平成 30 年 3 月策定の「牛久市子ども読書活動推進計画（第 2 次）」を基に（第 3 次）を策定するものです。



3 計画の対象

この計画は、0 歳から 18 歳までを対象としています。

4 計画の期間

令和 5 年度から令和 9 年度までの 5 年間とします。

5 計画の基本理念

「子どもの読書活動の推進に関する法律」第 2 条の理念に則り、
“すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう積極的に環境の整備を推進する”
ことを、本計画の基本理念とします。

6 計画の基本方針

基本理念を実現するため、以下の 3 点を本計画の基本方針とします。

- (1) 子どもが読書に親しむ機会の提供
- (2) 家庭、地域、学校などを通じた社会全体での取組みの推進
- (3) 子どもの読書活動への理解と関心を高めるための普及活動の実施

7 計画の体系



第2章 子どもの読書活動推進のための具体的な取り組み

1 家庭

(1) 現状・課題

本市が令和4年9月に行った「読書に関するアンケート調査」では、「本をこの1か月に何冊読みましたか」という問いに対して、平成29年と比較し、小学生では「10冊以上」「7～9冊」と回答する子どもは減少し、小学2年生は「4～6冊」「1～3冊」と回答する子どもが、また小学5年生では「1～3冊」「0冊」と回答する子どもが増加しています。特に小学5年生では不読率が5ポイント増加し、全体的に小学生の読書数が減少傾向にあります。一方、中学2年生・高校2年生は、「10冊以上」と回答する子どもが減少しているが、「0冊」と回答する子どもも減少し、中学2年生では「4～6冊」「1～3冊」と回答する子どもが、また高校2年生は「1～3冊」と回答する子どもが増加しています。特に、中学2年生の不読率が34%減少するなど、中学・高校生の不読率が減少し、読書数が増加傾向にあります。

「あなたやご家族の方は、本を読んでいますか」という保護者への問いに対して、読書をする割合が保育園・幼稚園等及び小学生の保護者は減少する傾向にある一方、中学2年生の保護者は増加する傾向が見られます。

また、「市の図書館で行っている取り組みの中で、あなたが参加したことがあるものは何ですか」という問いに対して、「うちどく」と回答した子どもの割合は、小学2年生が42%、小学5年生が52%、中学2年生が66%と、全ての年齢で1番高いだけでなく、小学生より中学生の方が高くなっています。

保育園・幼稚園の保護者へ「読み聞かせをする理由」や「読み聞かせをしない理由」、「市の図書館へ行く理由」などの問いに対して、「本を読むことが自分も楽しいから」「本を読むことが子どもの頃から好きだったから」「自分も本を読まなかったから」など、保護者の読書体験による意見が多く見られました。

以上のことより、子どもの読書活動は、保護者の本との関わり方に大きく影響されているということが分かります。

「子どもたちがもっと本を読むようになるにはどうすれば良いと思いますか」という小学生・中学生の保護者への問いに対し、「図書館・書店へ家族で出かける」という回答の割合が1番高く、「家族が本を読む姿を見せる」という回答の割合が2番目に高くなっています。「市の図書館へ行きますか」という問いに対しては、「行かない」と回答した保護者の割合が、どの年齢でも1番高く、新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」とする）流行の影響もあってか、図書館の利用を控える傾向になってしまったことは否め

ないところです。アフターコロナに向け、子どもと一緒に図書館へ行く、うちどくに参加するなど、保護者が読書活動の価値を認識し、子どもに対する一方的な支援ではなく、家族と一緒に読書を楽しむことにより、子どもの読書に対する興味関心が自然に高まるような環境づくりが望まれます。

(2) 方策

子どもの生活の基本となる場は、家庭です。子どもの読書活動を推進するうえでも重要な場となる家庭では、以下のような取り組みを行うことが望まれます。本市では、保護者に対して、読み聞かせや読書の重要性について理解と促進を図るための啓発・広報活動を行い、さらに各関係機関が連携・協力し、家庭での取り組みを支援していきます。

○うちどく(家読)の実施

「うちどく(家読)」とは、家族みんなで同じ本を読んで、読んだ本について話をすることです。読書の習慣を共有化し、家族のコミュニケーションを図ることで、家族の絆を強くしようという読書スタイルです。お互いに本をすすめあう、家族そろって本を選ぶなど、読む本について相談しあうことでもコミュニケーションが深まります。また、読んだ本について記録することにより、家族全員がそろって読書をする時間がなくても、一緒に楽しむことができます。家族で読書を楽しむために、テレビやゲーム、パソコンやスマートフォンなどを控える時間をつくることも大切です。

○読み聞かせの実施

子どもに絵本の読み聞かせをすることで、絵本を介した心ふれあう時間を持つことは、子どもに大きな安心感をもたらし、子どもの豊かな心、保護者と子どもの絆を育てます。短い時間でも読み聞かせを続けることが、本に親しみや興味を持ち、豊かな言葉を育て、読書習慣を身に付けることにつながります。また、自分で本が読めるようになって、読み聞かせの時間をもつことでコミュニケーションが生まれ、楽しいと感じる読書体験を続けることが、自発的な読書活動につながります。

○読書に親しむ保護者の姿勢

子どもは、読書に親しむ保護者の姿を見て、読書を身近なもの、楽しいものと感じることができます。そのことが子どもの自発的な読書活動となり、生涯にわたる継続的な読書習慣にもつながります。

○家庭の中に本がある環境づくり

身近な所に本を置くことが、本に親しみや興味を持ち自発的な読書と読書習慣を身に付けることにつながります。

その際、図書館などの本を利用することも、おすすめします。

○家族での図書館利用

図書館では、赤ちゃん絵本からさまざまな分野の図書と出会うことができます。そのような出会いが読書の幅を広げ、自発的な読書活動につながります。また、幼い頃から家族と一緒に図書館を利用することで、図書館利用が定着し、読書だけでなく図書を使って調べる習慣なども身に付きます。

○読書活動行事への参加

図書館で行っているおはなし会や各種イベントなど読書活動の行事に参加することにより、子どもが読書の楽しさを実感し、本に興味を持つきっかけをつくることができます。また、保護者が一緒に参加することで家庭での読み聞かせや読書活動につなげることもできます。

○読書手帳の活用

読書手帳は、図書館で本を借りたときに、借りた本の情報が記載されたシールをプリントアウトして読書手帳に貼ることで、自分だけの読書記録を作ることができます。子ども用（青）と大人用（緑）の2種類あり、記録枠がいっぱいになると、図書館で新しい手帳が発行され、小学生以下の子どもには達成シールも交付されます。また、読書手帳を活用することで、図書館利用の活性化はもとより、子どもたちの読書の定量化や読書活動へのアドバイスなどができます。「読書応援グッズ」としても期待されており、読書履歴を「見える化」することで読書意欲を高めます。

2 保育園・幼稚園・認定こども園

(1) 現状・課題

令和4年9月に行った「読書に関するアンケート調査」では、市内保育園・幼稚園等における各施設の読書環境などの現状を把握するための施設調査も併せて行いました。この調査によると、施設内に図書コーナーや図書施設を「設置している」と約6割の施設が回答している一方で、「設置がない」と答えた施設もありました。国の計画の中でも、「幼稚園・保育園等においても子どもが絵本等に親しむ機会を確保する観点から安心して図書に触れることができるようなスペースの確保に努める」とあることから、設置のなかった施設への図書コーナーなどの設置や、図書の整備などを働きかけることが必要です。また、「どのような読書活動をしていますか」という問いに対し、回答のあった19施設のすべてで「絵本や紙芝居などの読み聞かせを実施している」ということでした。その頻度についても「毎日」と答えている施設が18施設と多く、日頃から頻繁に読み聞かせをしている様子が見えます。その他、「読書活動を進めるにあたり、必要だと思われるのは何ですか」という問いに対し、もっとも多く票を集めたのが、「読み聞かせ・読書時間の確保(14票)」、次いで「施設内の子ども向け図書コーナーの設置や本の充実(13票)」、さらに「子ども向け図書の選書の知識(11票)」と続きます。このことから、保育園・幼稚園等では、乳幼児を集団で預かる性質上、発達段階に合わせた適切な選書を行うことが課題になっていることが分かりました。

(2) 方策

子どもが幼児期に読書の楽しさを知ることができるよう図書館は保育園・幼稚園等の自主的な読書活動を奨励し、以下の取り組みを支援していきます。

○読み聞かせ・おはなし会の実施

日常の保育・教育活動の中で読み聞かせを行い、園児が絵本に親しむ機会を提供します。また、保護者やボランティアによる読み聞かせ活動を奨励し、おはなし会の実施など読書活動の充実に努めます。

○読書環境の整備・充実

図書館は、絵本などの貸出や、子どもの成長に合わせた絵本の紹介を行ったり、選書のための知識を提供したりするなど、助言や支援を行っています。

○保護者への啓発

園児の保護者に対し情報提供をするとともに、読み聞かせや読書活動の大切さや意義を伝えていきます。

3 小・中・義務教育学校

(1) 現状・課題

本市では、学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」の3つの機能を果たすため、平成13年度より司書教諭に加え、学校司書の全校配置、平成16年度より「学校図書館資源共有ネットワーク推進事業」及び蔵書のデータベース化、平成28年度からは小中一貫教育を推進し、9年間の系統的な図書館利用教育に取り組んできました。

令和4年9月に行った「読書に関するアンケート」調査によると、小学2年生は令和4年でも平成29年でも変わらず86%の児童が「本を読むことが好き」と回答しているのに対し、小学5年生は平成29年の88%から令和4年で75%と13ポイント減少、中学2年生は平成29年の67%から令和4年で70%と3ポイントの増加となりました。学年が上がるにつれて読書意欲はゆるやかに減退し、特に小学校高学年においてその傾向が顕著となりました。

また、子どもを取り巻く環境も常に変化しています。内閣府「青少年のインターネット利用環境実態調査」の令和3年度調査によると、インターネットの利用状況が小学生で96.0%、中学生で98.2%となり、平成29年度に比べると、小学生65.4%から30.6ポイント、中学生85.2%から13ポイント増加しています。平日1日あたりの利用平均時間は、小学生で142.6分、中学生で251.1分となりました。しかし、インターネットを利用した読書は、小学生で3.5%、中学生で11.6%となり、平成29年度に比べると、小学生で4.8%から1.3ポイント、中学生で14.6%から2.2ポイントの減少となっています。このことから、日頃からインターネットを長時間利用する児童生徒が多いものの、電子書籍等の読書のために利用しているわけではなく、読書量が増えているとはいえないといえます。

本を読むことが好きではない理由として、小学2年生では41%の児童が「どんな本を読んだらいいかわからない」と回答したのに対し、小学5年生と中学2年生では「文字を読むのが面倒」という回答が最多となりました。小学校低学年では、読書意欲は高くても、この時期に興味関心のある本に出会えないことがその後の読書活動に影響を及ぼす可能性も考えられます。

また、「休み時間や放課後に、学校図書館へ行きますか」という質問については、小学2年生の50%、小学5年生の58%が「ほとんど行かない」と回答しました。平成29年度より小学2年生32%から18ポイント、小学5年生32%から26ポイントの増加となっています。さらに、令和3年度の学校図書館の貸出冊数は、第2次計画の数値目標を下回り、小学校が46.0冊、中学校が7.3冊となりました。この要因として、令和2年3月以降のコロナ流行が考えられます。

学校図書館は、全国一斉の臨時休業やオンライン学習、分散登校など、想定

外の事態に見舞われ、児童生徒の利用に大きな影響がありました。コロナ感染拡大防止対策として、児童生徒が学校図書館を利用する曜日や時間を制限したり、滞在時間を短時間にしたりすることで密を避ける対応をとりました。その結果、子どもが本を読みたいと感じたときに自由に利用できる学校図書館として存在できなくなったことが、児童生徒の学校図書館離れに影響していると考えます。

今後も学校図書館の開館や利用規則の変更については、コロナの感染拡大状況を注視しながら対応しなければなりません。一方で、平成 29 年の調査と比較し、「ほぼ毎日行く」と回答した児童生徒の割合にはほとんど変化がないことから、本を身近に感じている児童生徒は、コロナ禍以前と変わらず積極的に学校図書館に足を運ぶ傾向にあると考えられます。

学校図書館を適時利用できない場合でも、児童生徒がさまざまな本に出会えるように、司書教諭・学校司書・担任・教科担当が連携しながら教室に図書館の本を置き、定期的に入れ替えていく等、実態に即した対応が必要となります。今後こうして学校での図書利用の場が学校図書館から学級文庫へ一部委譲されていくであろう状況を踏まえ、第 3 次計画の実施施策の数値目標「学校図書館の利用件数」は、学級文庫利用を含む数字へ見直しを行いました。また、ブックトークや読み聞かせ等の従来の推進活動に加え、本を通したコミュニケーションを育む「ビブリオバトル※」や、読むことに積極的ではない児童生徒が本に興味を持つきっかけとなる「選書会」等、本を好きになれる、あるいは、より本を好きになるような多様な機会を設けることも不可欠です。

（２） 方策

自ら進んで読書をし、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を養うために、小中一貫教育を推進し、9 年間の系統的な図書館教育を実現していきます。国語力を向上させ、年齢が上がるにつれて減退傾向にある読書に対する意欲を維持できるよう取り組みます。また、生涯にわたって読書に親しむ礎を築き、自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の大切さを感じられるように支援していきます。

○「学校図書館ネットワーク」の積極的な活用

- ・ 図書を活用した授業の研究
- ・ ニーズに応えられる学校図書館運営
- ・ 個人リクエスト受付の周知

※ビブリオバトルとは…

参加者がおすすめの本をプレゼンし合い、お互いの投票によってチャンプ本を決めるイベント。優勝するのが人ではなく本であり、あくまで本が主体であることに特長がある。

○**読書を楽しみ、読書を通じた交流の推進**

- ・読み聞かせや朗読などの実施と充実
- ・うちどく（家読）の勧奨
- ・朝読書の充実
- ・読書週間行事の実施
- ・多様な読書活動の実施（選書会、ビブリオバトル等）

○**読書意欲と読書力の育成・向上**

- ・読書の時間の有効活用
- ・図書の紹介（ブックトークや図書だより・県推奨図書の掲示など）
- ・推薦図書リストの作成
- ・「みんなにすすめたい一冊の本」事業の推進
- ・授業でのより有効な図書活用の研究
- ・読書手帳の活用推進

○**探究心と課題解決スキルを育てる図書館利用教育の充実**

- ・図鑑、百科事典等の使い方指導の計画的実施
- ・小・中・義務教育学校が連携した系統的な図書館利用教育
（市内共通オリエンテーションワークシートなど）

4 高等学校

(1) 現状・課題

本市が、平成 29 年 7 月に生徒を対象に行った「読書に関するアンケート調査」では、「本を読むことが好きですか」という問いに対し、高校 2 年生の生徒のうち「好き」と答えたのは 67%、令和 4 年 9 月のアンケートでは 66%と、ほぼ等しい結果となり、前回までの著しい減少傾向からは脱したように見えます。ただし、「好きではない」と答えた理由としてもっとも多く選ばれたのが「文字を読むのが面倒」、次いで「どんな本を読んだらいいかわからない」となっており、その他には「自分から読もうとは思わない」「長時間集中できない」などの意見が寄せられました。このことから、読書に親しむ習慣がない生徒にとって、読書とは他者から強要される行為であり、好ましからぬ印象を抱かれていることがうかがえます。

「本を読むことが好き」と回答した生徒は横ばい状態ではありますが、不読率を問う「あなたは本をこの 1 ヶ月に何冊読みましたか」という問いに対して「0 冊（読まなかった）」と答えた生徒は、平成 29 年の 56%から 8 ポイント減り、48%となりました。この読まなかったと答えた生徒に対し「読書よりしたいことは何ですか」と問うたところ、「テレビ・ゲーム・パソコン・スマートフォン・タブレット（平成 29 年では「携帯電話」）」という回答が平成 29 年に 40%、令和 4 年には 45%と、増加の一途をたどっています。また、「読む本は、どのようにして選ぶことが多いですか」という問いに対し、小学生の間は「家族のすすめ」が上位 3 位に入っている一方で、中学生以降は「テレビやインターネット、雑誌・新聞」の割合が増えており、外部からの情報を自分で得ていること、属しているコミュニティが徐々に家庭から社会へ変化していることが分かります。このことから、高校生への読書支援は、幼少期～義務教育期までの家庭・学校へ行う支援とは異なるアプローチが必要であることは明白です。

今回のアンケートでは、市内高等学校における各校の読書環境や読書意識などの現状を把握するための学校図書館の調査も併せて行いました。この調査によると、「高校で行っている読書活動は何ですか」という問いに対し、「学校、図書館の先生、生徒による本の紹介」という回答がありました。具体的な取り組みとしては、生徒による図書コーナーの設置、おすすめの本の図書館だよりへの掲載などが挙げられました。

また、生徒数、蔵書数、貸出数から、この 1 年間の生徒 1 人あたりの貸出数の平均は 1.1 冊、蔵書回転率は 0.04 回、生徒 1 人当たりの蔵書数は 26 冊で、学校図書館の貸出は多くはありませんが、蔵書数は充実していることが分かります。

さらに、「市などの図書館へ行きますか」という問いについては、「行かない」が平成 29 年に 62%、令和 4 年には 73%と、市図書館を利用しない生徒の増加傾向に歯止めがかかりません。来館している生徒も、その約 6 割が利用意図を「勉強をする」ためと回答しています。市図書館そして学

校図書館の利用を促し、かつ、図書館と読書をつなげるような施策の企画検討が必要です。

(2) 方策

高等学校と市立図書館の連携を図り、様々な企画や活動を通して高校生の読書活動を促進し、支援していきます。

○読書意欲の向上と図書館の活用

- ・ 推薦コーナーなどの設置
- ・ 授業での図書館の活用
- ・ 図書館イベントの広報の拡充

○読書を通じた交流の推進と図書館の連携

- ・ 高校生も対象とした読書講座への参加促進
- ・ 市の図書館イベントへの高校生の参加促進

5 図書館

(1) 現状・課題

市立図書館では、子どもやその保護者に対して、子どもの読書活動を推進するための取り組みを実施しています。

本市が行った「読書に関するアンケート調査」で、「ご家庭でお子さんに読み聞かせを行っていますか」という問いに対して、「している」と回答した保育園・幼稚園の保護者の割合は、減少傾向にあります。そのうえで、ご家庭で読み聞かせをしていない理由として、もっとも多かったのは、「自分が忙しい」という回答ですが、「どんな絵本を読んだらいいかわからない」「子どもが絵本に興味を持たない」と回答する割合が増加しており、どのようにしたらよいか、戸惑われていることが分かります。「図書館の取り組みを知る機会が少ない」という意見があるように、コロナ禍のためブックスタート事業がパック配布のみになるなど、乳幼児の読書支援が不足してしまったことは否めず、保護者に対して、赤ちゃんとの絵本の楽しみ方や選書方法などを伝えるフォローアップが必要です。

また、読み聞かせをしない理由や図書館へ行かない理由、本の入手方法など、ほとんどの問いに対して、「コロナ前は、図書館へ行っていた。コロナ前は、図書館で本を借りて読み聞かせをしていた。」など、コロナ禍を理由とする意見が多く見られました。アフターコロナに向け、再度、乳幼児の読書支援に注力する必要があります。

加えて、乳幼児の子どもたちは、保育園・幼稚園で過ごす時間が長くなっている状況から、保育園・幼稚園への支援も重要となり、ニーズに合わせた支援内容の見直しが必要です。

児童生徒の読書については、「本を読むことが好きですか」という問いに対し「好き」と回答した子どもの割合が、平成 29 年は小学 2 年生が 86%、小学 5 年生が 88%、中学 2 年生が 67%、高校 2 年生が 67%であったのに対し、令和 4 年では、それぞれ 86%、75%、67%、66%と、小学 5 年生が 13%も減少し、好きと答える割合が減少する年齢が低くなっています。そのうえで、「好きではない理由は、何ですか」という問いに対しては、「どんな本を読んだらいいかわからない」「おもしろい本にあったことがない」という回答が増加傾向にあります。

また、「市の図書館へ行きますか」という問いに対して、「行かない」と回答した子どもの割合が、どの年齢でも 1 番高く、コロナ禍ということで図書館の利用を控える傾向になってしまったことは否めないところですが、「市の図書館へ行かない理由は何ですか」という問いに対しては、「読みたい本・おもしろい本がない」と回答した子どもの割合が、平成 29 年は小学 2 年生が 9%、小学 5 年生が 8%、中学 2 年生が 17%、高校 2 年生が 11%であっ

たのに対し、令和4年では、それぞれ21%、17%、15%、14%と増減があります。図書館への来館が減少し、所蔵している本が知られていないことが懸念されますが、「読みたい本・おもしろい本がない」と回答した子どもの割合が、小学生は増加している中、中学生は減少傾向にある理由として、中学・高校生向けの本を集めたYA（ヤングアダルト）コーナーの充実の効果が表れていると考察されます。

一方、「読む本は、どのようにして選ぶことが多いですか」という問いに対しては、「友だちのすすめ」「家族のすすめ」と回答した子どもの割合が、増加傾向にあります。

以上の点から、子どもの読書意欲や図書館利用は、蔵書構成に影響されること、友だちや家族のような身近な人からの本の紹介が有効であることが分かりました。この結果を受け、図書館ではYA（ヤングアダルト）コーナー以外の蔵書構成の見直しと、本の紹介方法の検討が必要です。また、アフターコロナに向け、イベント内容の見直しと、改めて図書館の取り組みを周知するための広報活動も重要です。

（２） 方策

市立図書館では、以下の取り組みを推進していきます。

○ブックスタート事業の推進

ブックスタートは、赤ちゃんと保護者に、絵本を開く楽しい「体験」と、「絵本」を手渡し、心ふれあうひとときを持つきっかけをつくる活動です。地域に生まれたすべての赤ちゃんを対象に、0歳児健診などで実施されます。本市ではボランティアの協力を得て保健センターで行われる3～4か月児健診に出向き、保護者と赤ちゃんに絵本を手渡し、本との出会いの場を提供していきます。

ブックスタートのフォローアップ事業として、司書による「おやこわらべうたの会」を牛久市公式YouTubeチャンネルに動画配信しています。親子で一緒に楽しく遊びながら心地の良い時間を過ごすことができる「わらべうた」から、自然と絵本に興味を持つように、お子さんの月齢に合わせたわらべうたを、季節ごとに紹介しています。

また、コロナ禍における乳児への読書支援を補うために、赤ちゃん絵本の楽しみ方や選書方法などを伝える機会を検討し、乳幼児を連れて安心して参加できるイベントを開催します。

○読書手帳の普及の推進

読書手帳サービスは、図書館で本を借りたときに、借りた本の情報が記載されたシールをプリントアウトして読書手帳に貼ることで、自分だけの読書記録を作ることができるサービスです。本市では、平成 29 年に導入し、同年に市内保育園・幼稚園・認定こども園の園児及び小・中学校の児童生徒全員、翌年からは小・中学校の新 1 年生及び義務教育学校の新 1・7 年生に配付しており、また、市内の未就学児には、中央図書館で配付しています。記録枠がいっぱいになったら、中央図書館で新しい読書手帳を発行できます。小学生以下の子どもには達成シールも交付しています。読書手帳 100 冊の記録を達成したら「読書賞」を贈呈しています。令和 2 年 9 月と令和 4 年 6 月に贈呈式を行いました。この読書手帳は、シールを貼るだけでなく、直接記入することもできます。図書館で借りた本の他に家庭や学校での読書記録としての活用を促すとともに、読書手帳を利用したイベントや学校連携を進めていきます。



< 読書手帳 >



< 読書賞授賞式 >

○定例おはなし会の開催

子どもが読書の楽しさを実感し、本に興味を持つきっかけとなるよう、読み聞かせボランティアと連携して 0～2 歳児向けおはなし会、乳幼児から大人を対象にしたおはなし会を実施していきます。

○各種講演会・イベントの開催

夏には夕涼みおはなし会、冬にはクリスマスおはなし会など季節や行事に合わせたおはなし会のプログラムを作成し、幅広い年齢に適した、家族で楽しめるおはなし会を開催していきます。また、従来は市内中学生による読み聞かせを実施していた「ティーンズおはなし会」については、中学生だけでなく高校生や大学生まで年齢を拡大するなど、開催要件の見直しを実施します。

春の「こどもの読書週間」や秋の「読書週間」に合わせ、読書普及・啓発及び、図書館利用の促進を目的に開催している「こどもとしょかんまつり」「としょかんまつり」については、時流に合わせたイベント内容を検討し、引き続き実施していきます。

家庭・地域・学校で、読み聞かせ活動を行っているボランティアを育成するために講師を招いて読み聞かせ講習会を開催し、家庭・地域・学校の読書に対する意識の向上を図ります。

加えて、アフターコロナに向け、来館を促すだけでなく、自宅や自由な場所から参加できるオンラインイベントや、今回の「読書に関するアンケート調査」を踏まえ、子どもたちの図書館の本の認知度を上げるために、本の紹介や利用に繋がるようなイベントの内容を検討します。



＜令和4年読み聞かせ講習会＞



＜図書館クリスマスおはなし会＞
(※) コロナ感染拡大防止のため距離を取って開催

○児童図書・YA(ヤングアダルト)コーナーの充実

授乳室やおむつ替えシートの設備など、乳幼児を連れた保護者が来館しやすい環境を整えています。また、紫外線で本を消毒するブッククリーンを館内に設置し、安心して図書館を利用できる読書環境の整備に努めています。

児童生徒向けの読み物図書に関しては、絵本から童話、童話から物語、物語から文学へと読書興味の推移に合わせ、読書の幅を広げられるよう「小学校低学年～中学年向け」と「小学校中学年～中学生向け」にコーナーを分けて配架しています。今回の「読書に関するアンケート調査」を踏まえ、子どもたちの興味関心の高い本や年齢に応じた本を所蔵するなど、児童書の蔵書構成の見直しを検討し、子どもたちの読書意欲の向上を目指します。中・高校生に対しては、YA(ヤングアダルト)コーナーの蔵書をより充実させ、引き続き周知にも努めます。

また、子どもや保護者の選書の助けとなるよう、絵本ガイドコーナー、012 絵本コーナー、児童イベントコーナーの充実を図ります。さらに、年齢に応じたおすすめの本のリストを作成・配布するなど、本の紹介方法を検討し、読書活動の普及に努めます。

○うちどく(家読)事業の推進

家族みんなで同じ本を読むことをきっかけに、読書の習慣を共有化し、家族のコミュニケーションを図ることで、家族の絆を強くしようという読書スタイル「うちどく（家読）」事業を推進します。長期休業期間に市内小・中・義務教育学校の児童生徒全員へ読んだ本を記録する「うちどく用紙」や「うちどくノート」を配付し、「うちどく（家読）」の意義を周知することで、家庭内での読書活動の推進に努めます。

○学校図書館ネットワーク事業の推進

学校図書館ネットワーク事業は“本の共有で学びを豊かに”を基本理念に、市立図書館と学校図書館が蔵書を共有することで、学校教育における子どもの学びと読書を支援する事業です。人的・情報・物流の3つのネットワークから構成され、NPO 法人リーブルの会（以下「リーブルの会」という。）が図書の配送のために市内小・中・義務教育学校を週1日訪問し、学校で必要な資料を市立図書館からも司書が選書し提供しています。また、学校図書館の質的向上を図るため、資料情報の提供などの支援も行い、各学校及び教育委員会の関係部署と連携し、引き続き事業の充実に努めます。

○市内子育て・教育施設の支援

学校図書館ネットワーク事業の更なる支援を行うため「ふくろう文庫」と称した図書や紙芝居のセットを司書が選書し、リーブルの会が市立保育園・幼稚園、市内児童クラブに配送します。また、こども家庭課が主催する「リフレ子育て出張広場」における司書による「絵本と遊ぼう」の実施の他、リーブルの会の紙芝居隊・音楽隊が児童クラブ、子育て広場に出向いています。加えて、乳幼児が過ごすことの多くなった保育園・幼稚園へは、必要とされる支援内容を検討します。

○日本語を母語としない子どものための支援

外国語で書かれた絵本や図書を収集した「外国語絵本コーナー」及び「外国語図書コーナー」や、日本語教育関連図書の充実に努めます。また、やさしい日本語で書かれた LL ブックを収集します。

○障がいのある子どものための支援

令和 2 年 7 月に、「読書バリアフリー基本計画」が策定され、障害の有無にかかわらず、読書を楽しむことができるような支援が求められています。図書館を利用する際、特別な支援を必要とする子どものために、点字図書やさわって楽しむ絵本、LL ブック、録音図書などを収集し、録音図書再生機の貸出など、整備・充実させていきます。また、近隣の特別支援学校の要請に応じ、読み聞かせボランティアと司書が協力して、おはなし会の実施や図書館から季節に合わせたおすすめ本の貸出を実施していきます。

○子どもの読書活動推進や、図書館利用促進のための啓発・広報

図書館におけるおはなし会や各種イベント開催のお知らせをする「としょかんだより」を毎月 1 回発行しています。子どもや保護者に、図書館での読書活動推進の取り組みを周知する記事をより充実させるなど、広報活動の拡充に努めます。

また、牛久市コミュニティ FM 放送局による「FM うしくうれしく放送」、市のホームページ・かっぱメール・SNS など、各種メディアを利用した広報活動をしています。図書館のホームページも、より多くの方に見ただけできるよう、使いやすく親しみのある子どものページにリニューアルしました。トップページからの導線を工夫する他、子どもにとっても分かりやすい表現での広報を心がけます。

市が実施している「行政情報出前講座」事業の一環として、司書が出向き、図書館で提供している様々なサービスの紹介や家庭での読み聞かせなどについての「出前講座」を実施していきます。

子どもたちに図書館の業務内容を身近に感じてもらうため、小学生の図書館見学、中学生の職業体験の受け入れを引き続き実施していきます。

○ボランティアの育成と支援

読み聞かせボランティアやブックスタートボランティアなど、子どもの読書活動に携わるボランティアの育成のため、講師を招いて読み聞かせ講習会などを実施していきます。また、ボランティア団体専用の利用者カードを作成し、読み聞かせに使用する図書及びパネルシアターや紙芝居枠などの資料・備品の貸出を実施していきます。

6 読み聞かせボランティア・地域読書活動推進団体

(1) 現状・課題

図書館や地域で行っている読書活動では、ボランティア及び地域読書活動推進団体が大きな役割を果たしています。図書館においては、5つの読み聞かせボランティア団体の協力を得て、子どもの発達段階に応じた「おはなし会」の他、「こどもとしょかんまつり」や「としょかんまつり」におけるおはなし会、「夕涼みおはなし会」、「クリスマスおはなし会」といった季節に合せたおはなし会を開催しています。

幼稚園・小学校においては、保護者などで組織された読み聞かせボランティアが、幼稚園・小学校に出向いて読み聞かせ活動を行うなど、活発な読書活動を行っています。さらにボランティア・地域読書活動団体などが、子育て支援施設や生涯学習センター・区民会館などを拠点とした読み聞かせ活動、地域によっては文庫活動を行っています。

課題としては、活動を安定的に行うことができるボランティアの確保が挙げられます。小学校・幼稚園・図書館の読み聞かせボランティアを対象としたボランティア交流会を年1回開催し、より充実した読書活動を実施するため、ボランティアの相互支援と連携を求めています。

また、各地域に伝わる昔話の読み聞かせや紹介を積極的に行っているボランティア・団体が複数あり、そうした活動についても市は支援していく必要があります。

(2) 方策

○読み聞かせ・おはなし会の実施

日常の読み聞かせ活動に加えて、地域の催しで絵本などの読み聞かせを行い、子どもが読書に親しむ様々な機会を提供していきます。

○地域に伝わる昔話の伝承の推進

子どもが、自分が暮らしている地域に親しみや関心を持つよう、地域に古くから伝わる昔話の紹介や読み聞かせを行う活動（「昔話を語る会」の開催等）を推進していきます。

○図書館主催の講習会への参加

図書館主催の読み聞かせ講習会に積極的に参加し、読み聞かせの技向上や活動のさらなる充実に努めます。

7 実施施策の数値目標

本市では、計画の進捗状況を把握するための指標として、次のとおり実施施策などの数値目標を設定します。

目標項目	(現 状) 令和 4 年度	(目 標) 令和 9 年度	備 考
本の入手方法の中での図書館の選択率	21%	30%	
図書館での取り組みの認知率	24.8%	35%	
うちどく（家読）の実施率	52.7%	55%	
学校図書館の利用件数 （図書館ネットワークの物流 依頼件数も含む）	3,825件	4,000件	※R3 年度集計
学校図書館での児童生徒の 平均年間貸出冊数 （1人当たり）	小学校 46.0冊 中学校 7.3冊	小学校 58冊 中学校 12冊	※R3 年度集計
1ヶ月に全く本を読まない 児童生徒の割合（不読率）	小学校 6.1% 中学校 12.0%	小学校 2.0% 中学校 8.0%	

第3章 方策の推進体制の整備・充実

1 関係機関の連携・協力

子どもの読書活動の推進にあたっては、市内保育園・幼稚園等の幼児教育施設をはじめ、地域、学校、市立図書館や読書活動推進団体、ボランティアの方々などが相互に情報交換や交流を通して連携、協力し、読書環境を整備、充実させていくことが大切です。本市では、子どもが自主的に読書活動を行うことができるよう関係機関との連携をとりながら、支援していきます。

2 啓発、広報などの推進

市立図書館では「こどもの読書週間」（4月27日～5月10日）の期間中に、読書を通して多くのことを学べることを子どもたちに周知するために、ポスターの掲示等を行い、読書活動の啓発と広報に努めます。さらに読書週間に併せてイベントを実施し、読書と子どもたちを結び付ける様々な工夫を凝らします。また、読書週間の期間外においても読書を楽しみ、読書を通じた交流の推進のために様々な行事を実施し、子どもの読書活動について関心と理解を深め、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるように努めます。

3 推進計画の進行管理・財政上の措置

本市の「子ども読書活動推進計画」の進捗状況を把握するにあたり、定期的に子どもの読書活動の実態を調査し、総合的かつ継続的な進行管理を行っていきます。

また、この計画に示した各種施策を実施し、環境を整備するために必要な財政上の措置を講じるよう努めます。

資料編

資料 1

令和 4 年「読書に関するアンケート調査」実施結果

1 調査の目的

このアンケートは、一人ひとりの子どもが自然に読書に親しむことができるよう成長に応じた読書活動を支援し、子どもの読書環境を整備していくために策定する「牛久市子ども読書活動推進計画」の基礎資料とするもので、読書環境の現状を把握し、今後の読書活動の課題の洗い出し、また施策の方向性を探るため実施したものです。

これらのアンケート結果から得られた情報は、この度策定する計画にできる限り反映させ、今後の子どもの読書活動推進のための貴重な資料として活用いたします。

2 アンケート対象者

対 象	回答数
保育園等保護者 【2 歳児・5 歳児】	5 3 0
幼稚園保護者 【5 歳児】	9 4
小学 2 年生	3 2 1
小学 5 年生	3 6 6
中学 2 年生	4 1 5
小・中学生の保護者	7 2 8
高校 2 年生	3 7 0
合計	2, 8 2 4
施設・学校アンケート	市内保育園・幼稚園等 1 9 施設 高校 2 校

3 調査期間 令和 4 年 9 月 5 日（月）～1 0 月 1 4 日（金）

資料2

令和4年度 児童生徒アンケート実施結果（％表示）

問1：あなたは、本を読むことが好きですか？				
	小学校2年生	小学校5年生	中学校2年生	高校2年生
好き	86	75	67	66
好きではない	14	24	33	33
無回答	0	1	0	1
問2：問1で「好きではない」と答えた人だけにお聞きします。 好きではない理由は何ですか？（複数回答可）				
	小学校2年生	小学校5年生	中学校2年生	高校2年生
文字を読むのが面倒	35	51	54	64
どんな本を読んだらいいかわからない	41	27	19	19
おもしろい本にあったことがない	22	22	15	9
その他	2	0	12	8
問3：あなたは、本をこの1カ月に何冊読みましたか？（マンガ・雑誌は除く）				
	小学校2年生	小学校5年生	中学校2年生	高校2年生
0冊（読まなかった）	4	8	12	48
1～3冊	20	28	58	46
4～6冊	15	19	16	3
7～9冊	14	10	6	1
10冊以上	47	35	8	1
無回答	0	0	0	1
問4：問3で「0冊（読まなかった）」と答えた人だけにお聞きします。 読書よりしたいことは何ですか？（複数回答可）				
	小学校2年生	小学校5年生	中学校2年生	高校2年生
塾や勉強、クラブ活動	23	4	17	23
テレビ、ゲーム、スマートフォン等	12	45	49	45
友人と遊ぶ	47	31	24	27
家族と出かける	18	16	9	2
その他	0	4	1	3
問5：あなたは、電子書籍を読んだことはありますか？				
	小学校2年生	小学校5年生	中学校2年生	高校2年生
ある	33	40	60	37
ない	67	60	38	62
無回答	0	0	2	1

問 6：学校の授業や宿題の他に、本をこの 1 週間で読みましたか？（マンガ・雑誌は除く）				
	小学校 2 年生	小学校 5 年生	中学校 2 年生	高校 2 年生
読んだ	66	65	57	
読んでいない	34	35	43	
無回答	0	0	0	
問 7：読みたい本は、どのように手に入れますか？（複数回答可）				
	小学校 2 年生	小学校 5 年生	中学校 2 年生	高校 2 年生
本を買う・買ってもらう	34	32	41	51
電子書籍を買う・買ってもらう	4	3	6	6
学校図書館や学級文庫で借りる	18	21	18	7
市の図書館で借りる	14	13	8	8
友人に借りる	5	7	9	11
家にある本を読む	25	24	18	17
問 8：あなたは休み時間や放課後に、学校図書館へ行きますか？				
	小学校 2 年生	小学校 5 年生	中学校 2 年生	高校 2 年生
ほぼ毎日	10	9	5	3
週 1 回以上	17	19	19	3
月に 1～2 回	23	14	22	4
ほとんど行かない	50	58	54	89
無回答	0	0	0	1
問 9：あなたは市の図書館へ行きますか？				
	小学校 2 年生	小学校 5 年生	中学校 2 年生	高校 2 年生
月に 2 回以上	19	15	4	5
1～2 カ月に 1 回	23	11	6	5
3～5 カ月に 1 回	9	9	7	4
6 カ月～1 年に 1 回	10	21	21	12
行かない	39	44	62	73
無回答	0	0	0	1
問 10-①：問 9 で「月に 2 回以上」「1～2 カ月に 1 回」と答えた人だけにお聞きします。 図書館へは誰と行くことが多いですか？				
	小学校 2 年生	小学校 5 年生	中学校 2 年生	高校 2 年生
ひとりで行く	13	9	33	57
家族と行く	74	82	54	15
友人と行く	13	9	11	28
その他	0	0	2	0

問 10-②：問 9 で「月に 2 回以上」「1 ～ 2 カ月に 1 回」と答えた人だけにお聞きします。
市の図書館をどのように利用していますか？（複数回答可）

	小学校 2 年生	小学校 5 年生	中学校 2 年生	高校 2 年生
本を読む	37	35	37	22
本を借りる	31	39	14	19
ビデオ・DVD をみる	7	5	8	0
調べ物をする	8	12	15	0
おはなし会やイベントに参加する	4	0	4	0
勉強をする	10	6	18	59
インターネット	3	3	4	0
その他	0	0	0	0

問 11：問 9 で「3 ～ 5 カ月に 1 回」「6 カ月～ 1 年に 1 回」「行かない」と答えた人だけにお聞きします。市の図書館へ行かない理由は何ですか？（複数回答可）

	小学校 2 年生	小学校 5 年生	中学校 2 年生	高校 2 年生
読みたい本・おもしろい本がない	21	17	15	14
図書館へひとりでは行けない(遠い)	35	28	15	10
時間がない（塾・クラブ活動等）	18	25	27	34
本が好きではない	11	10	12	13
本は自分で買うから	12	10	23	25
その他	3	10	8	4

問 12：市の図書館で行っている取り組みの中で、あなたが知っているものは何ですか？
（複数回答可）

	小学校 2 年生	小学校 5 年生	中学校 2 年生	高校 2 年生
おはなし会	23	18	17	28
（こども）としょかんまつり	10	12	8	13
映画会	6	7	9	10
学校図書館ネットワーク※1	5	7	8	
児童クラブへの本の配送	8	7	7	8
うちどく※2	36	39	34	22
図書館見学	6	5	4	4
職場体験			9	10
ヤングアダルトコーナー※3	3	3	3	4
オンラインイベント※4	3	2	1	1

※1 市内の他の学校や図書館から本を借りる仕組み
 ※2 家族で同じ本を読み、読んだ本について話すること
 ※3 10 代向け図書コーナー
 ※4 例）ワークショップ「気のうちわをデコっちゃお♪」など

問 13：市の図書館で行っている取り組みの中で、あなたが参加したことがあるものは何ですか？（複数回答可）				
	小学校 2 年生	小学校 5 年生	中学校 2 年生	高校 2 年生
おはなし会	23	16	13	17
（こども）としょかんまつり	10	19	6	10
映画会	9	6	8	14
うちどく	42	52	66	48
図書館見学	13	6	5	2
職場体験			2	4
オンラインイベント	3	1	0	5
問 14：あなたの家族は、本を読んでいますか？				
	小学校 2 年生	小学校 5 年生	中学校 2 年生	高校 2 年生
よく読んでいる	33	30	17	17
ときどき読んでいる	35	36	36	31
あまり読んでいない	18	22	25	29
まったく読んでいない	14	12	22	20
問 15：家族で、本について話をすることはありますか？				
	小学校 2 年生	小学校 5 年生	中学校 2 年生	高校 2 年生
よく話す	17	11	5	2
ときどき話す	31	28	21	20
ほとんど話さない	27	35	31	27
話さない	25	26	42	47
問 16：あなたは小さいころ、家族から本を読んでもらったことがありますか？				
	小学校 2 年生	小学校 5 年生	中学校 2 年生	高校 2 年生
よく読んでもらった	53	50	40	46
ときどき読んでもらった	28	29	34	32
あまり読んでもらったことがない	9	15	16	14
まったく読んでもらったことがない	10	6	9	5
問 17：問 16 で「よく読んでもらった」「ときどき読んでもらった」と答えた人だけにお聞きします。読んでくれたのは、誰ですか？				
	小学校 2 年生	小学校 5 年生	中学校 2 年生	高校 2 年生
お父さん	28	21	20	19
お母さん	53	51	57	62
お兄さん・お姉さん	8	9	5	5
おじいさん・おばあさん	11	17	16	13
その他	0	2	2	1

問 18：読む本は、どのようにして選ぶことが多いですか？（複数回答可）				
	小学校 2 年生	小学校 5 年生	中学校 2 年生	高校 2 年生
自分で表紙などを見て	35	43	47	46
友人のすすめ	24	21	17	14
家族のすすめ	24	14	7	5
先生や学校司書の紹介	8	2	2	1
テレビやインターネット、雑誌・新聞	2	8	21	30
図書館だよりや図書館の推薦リスト	5	3	2	2
その他	2	9	4	2
問 19：読書はどこでしますか？（複数回答可）				
	小学校 2 年生	小学校 5 年生	中学校 2 年生	高校 2 年生
家	41	38	39	63
学校	30	47	42	17
図書館	23	4	7	4
移動中（車や電車の中）	6	10	10	15
その他	0	1	2	1
問 20：あなたは、読書をすることでどんなことが得られると考えていますか？ （中学生・高校生のみ/複数回答可）				
	小学校 2 年生	小学校 5 年生	中学校 2 年生	高校 2 年生
知識・情報			27	28
想像する力			24	23
生き方のヒント			10	12
読書の楽しさ			20	16
表現力を養う			17	20
その他			2	1
問 21：あなたは、今後も積極的に読書を続けていきたいと思いますか？ （中学生・高校生のみ）				
	小学校 2 年生	小学校 5 年生	中学校 2 年生	高校 2 年生
思う			68	66
思わない			32	29
無回答			0	5

児童生徒記述式意見

本を読むことが好きではない理由は何ですか？

対象学年	その他意見
小学2年生	・好きなジャンルの本を読み尽くしてしまったから
小学5年生	・あまり好きな本がない ・時間がない ・他にやりたいことがある
中学生	・内容が頭に入ってこない ・縦書きが読めない ・文字だけでは情景が思い描けない
高校生	・時間がない ・内容が頭に入ってこない ・読んでいるところを見失う

読書よりしたいことは何ですか？

対象学年	その他意見
小学5年生	・絵を描く ・ピアノを弾く
高校生	・マンガを読む ・部活動 ・ぼーっとする

市の図書館へ行かない理由は何ですか？

対象学年	その他意見
小学2年生	・場所が分からない ・図書館がどんなところか分からない ・外遊びをする
小学5年生	・場所が分からない ・返すのがめんどくさい ・ゲームや動画など他にしたいことがある ・親の仕事が忙しい
中学生	・めんどくさい ・学校図書館で満足している
高校生	・めんどくさい ・他人が触った本を回し読みしたくない ・ゲームがしたい

小さい頃、本を読んでくれたのは誰ですか？

対象学年	その他意見
小学5年生	・親戚（おじ、おば、いとこ、いとこの親など） ・親の友人 ・弟妹
中学生	・親戚（おじ、おば、いとこ、いとこの親など） ・親の友人 ・弟妹 ・保育園の先生
高校生	・親戚（おじ、おば、いとこ、いとこの親など） ・義妹 ・保育園の先生

読む本は、どのようにして選ぶことが多いですか？

対象学年	その他意見
小学2年生	・おもしろそうなものを自分で選ぶ ・シリーズで
小学5年生	・適当に ・文章が短いもの ・題名、あらすじを見て ・ジャンル ・前に読んだ作家の本 ・試し読みしたもの ・映画の原作
中学生	・適当に ・シリーズで ・好きな作家の本 ・ジャンル、分野 ・あらすじを見て ・試し読みしたもの ・アニメの原作
高校生	・ドラマや映画の原作 ・好きな作家の本

読書はどこでしますか？

対象学年	その他意見
小学5年生	・習い事の待機時間 ・静かな場所
中学生	・公園 ・買い物や美容院、大会などの待ち時間 ・どこでも
高校生	・カフェ

読書をする事でどんなことが得られると考えていますか？

対象学年	その他意見
中学生	・落ち着いた雰囲気 ・苦勞 ・読解力、国語力 ・他者の価値観・癒し ・興味が増える
高校生	・読解力、国語力 ・語彙力 ・幸福感

将来も積極的に読書を続けていきたいと思いませんか？

対象学年		その他意見
中学生	思う	・本を読むことが楽しいから ・まだまだ読みたい本があるから ・役に立つから ・人生に影響を与えてくれるから ・知識を得ることができるから ・読むと落ち着く ・読書が誰かと話すための話題になる ・読書が趣味の大人の人がいつも適切なアドバイスをくれて かっこいいから
	思わない	・読んでいる時間がない ・本は好きではない、つまらない ・時間の無駄 ・内容をすぐ忘れるから ・めんどくさい ・好きな本とめったに出会わないから ・親に言われれば読む
高校生	思う	・読書が楽しいから、読書でしか得られない楽しさがあるから ・絵を描くためのインスピレーションをもらえと思うから ・新しい知識や語彙が増える ・集中力を高めたい ・将来役に立つ、今後にいかせると思うから ・他人の感じ方や考え方が分かるから ・人生が豊かになる ・非現実的な気分に浸れるから ・リフレッシュ ・読解と速読ができるようになりたいから ・自分では体験できないことを知ることによって自分の世界が広がるから ・絵などでは表現できないものを感じるから
	思わない	・読む時間がない ・本が嫌い、文字を読むことが好きではない ・他にしたいことがある（有意義なことに時間を使いたい） ・他の手段でも知識は得られるから ・めんどくさい ・マンガのほうがいい ・読書をして読解力は上がらないから ・お金がない ・続けて読まないとい内容を忘れてしまう

市の図書館に希望することはありますか？

対象学年	その他意見
中学生	・恐竜や生物の図鑑を増やしてほしい ・サスペンスミステリーを増やしてほしい ・子どもが書いた小説を本にする企画をしてほしい ・マンガを置いてほしい
高校生	・学習施設を充実させてほしい ・カフェを作ってほしい ・大規模なイベントを開催したり、大々的な宣伝をしたりすべき ・最新の本を入れてほしい ・もっと家の近くにほしい ・飲食、休憩スペースがほしい ・マンガを置いてほしい ・より適切な情報への案内をしてほしい

資料3

令和4年度 保育園・幼稚園等保護者
アンケート実施結果（％表示）

問1：あなたの年齢に当てはまる年代を選んでください。				
	2歳保育園等 保護者	5歳保育園等 保護者	5歳幼稚園 保護者	合計
10代	2	0	0	1
20代	21	4	2	9
30代	55	51	54	53
40代	21	41	41	34
50代	0	1	1	1
60代以上	0	0	1	0
無回答	1	3	1	2
問2：ご家庭でお子さんに読み聞かせを行っていますか。				
	2歳保育園等 保護者	5歳保育園等 保護者	5歳幼稚園 保護者	合計
している	70	55	68	62
したいと思っているがしていない	22	27	15	23
していない	4	15	15	11
無回答	4	3	2	4
問3：問2で「している」を選んだ方に伺います。 A) ご家庭でどのくらいの頻度で読み聞かせをしていますか。				
	2歳保育園等 保護者	5歳保育園等 保護者	5歳幼稚園 保護者	合計
毎日	25	25	9	23
週に3～5回	35	28	28	30
週に1～2回	27	31	28	29
週に1回未満	13	16	35	18
問3：B①) ご家庭で一番多く読み聞かせをする方はどなたですか。				
	2歳保育園等 保護者	5歳保育園等 保護者	5歳幼稚園 保護者	合計
父親	14	16	16	15
母親	78	81	81	80
祖父母	3	1	0	1
きょうだい	3	2	3	3
その他	2	0	0	1

問3：B②) ご家庭で二番目に多く読み聞かせをする方はどなたですか。				
	2歳保育園等 保護者	5歳保育園等 保護者	5歳幼稚園 保護者	合計
父親	56	60	57	58
母親	20	20	18	20
祖父母	9	9	7	9
きょうだい	12	10	18	12
その他	3	1	0	1
問3：C) 読み聞かせに使用する絵本や紙芝居をどのような方法で入手していますか。 (複数回答可)				
	2歳保育園等 保護者	5歳保育園等 保護者	5歳幼稚園 保護者	合計
購入する	62	55	58	58
図書館から借りる	23	31	22	27
幼稚園保育園から借りる	5	5	13	6
友人から借りる	1	1	1	1
その他	9	8	6	8
問3：D) ご家庭でいつ頃から読み聞かせを始めましたか。				
	2歳保育園等 保護者	5歳保育園等 保護者	5歳幼稚園 保護者	合計
生後すぐ	25	20	6	20
3～6カ月	38	41	48	41
7～11カ月	20	15	14	16
1～2歳	17	16	19	17
3～4歳	0	5	9	4
5歳～	0	2	2	1
その他	0	1	2	1
問3：E) 読み聞かせをする理由を教えてください。(複数回答可)				
	2歳保育園等 保護者	5歳保育園等 保護者	5歳幼稚園 保護者	合計
本好きになってほしい	19	20	19	19
心ゆたかに育ててほしい	20	24	24	23
言葉ゆたかに育ててほしい	24	22	20	22
読み聞かせを通じて親子のコミュニケーションをとりたい	21	21	20	21
読み聞かせがいいと言われているから	12	8	11	10
その他	4	5	6	5

問4：問2で「したいと思っているがしていない」「していない」を選んだ方に伺います。 読み聞かせをしていない理由を教えてください。（複数回答可）				
	2歳保育園等 保護者	5歳保育園等 保護者	5歳幼稚園 保護者	合計
自分が忙しい	43	41	32	39
面倒	13	16	18	16
どんな絵本を読んだらいいかわからない	12	8	8	9
絵本が用意できない	3	5	2	4
子どもが絵本に興味を持たない	15	13	20	14
年齢的にまだ早い	2	0	0	1
読み聞かせを大切だと思わない	1	0	3	1
その他	11	17	17	16
問5：読み聞かせをすることは、大切だと思いますか。				
	2歳保育園等 保護者	5歳保育園等 保護者	5歳幼稚園 保護者	合計
大切だと思う	92	87	79	87
大切だとは思わない	0	0	2	1
どちらともいえない	6	11	17	10
無回答	2	2	2	2
問6：あなたのご家庭は、お子さんがすぐ手にとれる所に本を置いていますか。				
	2歳保育園等 保護者	5歳保育園等 保護者	5歳幼稚園 保護者	合計
置いている	96	94	96	95
置いていない	3	4	3	3
無回答	1	2	1	2
問7：あなたやご家族の方は、本を読んでいますか。				
	2歳保育園等 保護者	5歳保育園等 保護者	5歳幼稚園 保護者	幼児保護者 合計
よく読んでいる	17	17	16	17
ときどき読んでいる	29	42	41	38
あまり読んでいない	32	30	30	30
まったく読んでいない	21	9	12	13
無回答	1	2	1	2

問 8：ご家族で本について話をすることはありますか。				
	2 歳保育園等 保護者	5 歳保育園等 保護者	5 歳幼稚園 保護者	合計
よく話す	10	11	14	11
ときどき話す	38	50	48	46
ほとんど話さない	30	28	28	28
無回答	20	9	9	13
問 9：あなたやご家族の方が、市図書館へ行く頻度を教えてください。				
	2 歳保育園等 保護者	5 歳保育園等 保護者	5 歳幼稚園 保護者	合計
月 2 回以上	8	12	9	10
1 ～ 2 カ月に 1 回	16	14	15	15
3 ～ 5 カ月に 1 回	7	12	11	10
6 カ月～1 年に 1 回	14	16	16	16
行かない	51	43	47	46
無回答	4	3	2	3
問 10：問 9 で「月 2 回以上」「1 ～ 2 カ月に 1 回」を選んだ理由は何ですか。				
	2 歳保育園等 保護者	5 歳保育園等 保護者	5 歳幼稚園 保護者	合計
自分の読書のため	36	25	37	31
子どもに本を読んでほしいから	56	58	50	56
講演会やおはなし会などのイベントに参加 するため	3	3	3	3
その他	5	14	10	10
問 11：問 9 で「月 2 回以上」「1 ～ 2 カ月に 1 回」「3 ～ 5 カ月に 1 回」 「6 カ月～1 年に 1 回」を選んだ方に伺います。 あなたやご家族の方が市図書館へ行くとき、お子さんを連れていきますか。				
	2 歳保育園等 保護者	5 歳保育園等 保護者	5 歳幼稚園 保護者	合計
いつも連れて行く	69	72	69	70
ときどき連れて行く	17	21	29	21
あまり連れて行かない	13	5	2	7
まったく連れて行かない	1	2	0	2

問 12：子どもの読書推進のために市図書館が行っている取り組みの中で、 知っている取り組みを教えてください。				
	2歳保育園等 保護者	5歳保育園等 保護者	5歳幼稚園 保護者	合計
ブックスタート	27	24	23	25
赤ちゃん向けおはなし会	20	20	18	20
幼児・児童向けおはなし会	19	17	15	17
こども図書館まつり・図書館まつり	4	7	8	6
映画会	12	11	12	11
学校図書館ネットワーク	2	1	1	1
幼稚園・保育園・児童クラブへの本の配送	2	3	3	3
うちどく	10	14	14	13
図書館見学	0	0	1	0
職場体験	1	2	2	2
ヤングアダルトコーナー	1	0	1	1
オンラインイベント	2	1	2	1

保育園・幼稚園等保護者 記述式意見

ご家庭でお子さんに二番目に多く読み聞かせをする方はどなたですか。

対象	その他意見
5 歳保育園等	・ 本人が読みたがる

読み聞かせに使用する絵本や紙芝居をどのような方法で入手していますか。

対象	その他意見
2 歳保育園等	・ おさがり（両親、上のきょうだい、親戚、知人） ・ 園からの配布 ・ 園での定期購入 ・ 上のきょうだいが小学校で借りてくる ・ プレゼントでもらった
5 歳保育園等	・ おさがり（上のきょうだい、親戚、知人） ・ 園での購入 ・ 上のきょうだいが小学校で借りてくる ・ プレゼントでもらった ・ 習い事で借りる ・ 飲食店のおまけ
5 歳幼稚園	・ 譲り受ける ・ プレゼントでもらった

ご家庭でいつ頃から読み聞かせを始めましたか。

対象	その他意見
5 歳保育園等	・ 気づいた時には始めていた

読み聞かせをする理由を教えてください。

対象	その他意見
2 歳保育園等	・ 子どもにせがまれる ・ 子どもが本好き ・ 図書館の本は無料で借りれるが、おもちゃを買うとお金かかるから ・ 様々な物事に興味を持って、知って欲しい ・ 親の持っていない感性に触れさせたい ・ 一緒に抱き合って読む時間が幸せだから ・ 自分（親）が子どもの頃絵本が好きだった思い出があるから
5 歳保育園等	・ 子どもにせがまれる ・ 発語が遅かったため ・ 音読をさせたい ・ 想像力や他者の気持ちなどを学ぶため ・ 子どもが本好き ・ 様々な物事に興味を持って、知って欲しい ・ 読んで子どもがどう感じるのか知りたい
5 歳幼稚園	・ 子どもにせがまれる ・ 子どもを落ちつかせるため ・ 大きくなってから本を読むことが普通である環境であってほしいから ・ 寝かしつけるため ・ 親自身、本が好きなので ・ 子どもが喜ぶ ・ ひらがなに興味を持ってほしい

読み聞かせをしていない理由を教えてください。

対象	その他意見
2 歳保育園等	・ 他の遊びに夢中 ・ 他のきょうだいが邪魔するのでケンカになる ・ ページをめくるタイミングやどの本を読むかで姉とケンカになる
5 歳保育園等	・ 日本語が読めない ・ じっとしていてくれない ・ 読みたい本を子どもが自分で読めるようになったため ・ 本を読むタイミングが無い ・ 保育園で読んでもらっているからか、自分で読んでいいのか、「読んで」と言われない ・ コロナで絵本を借りてくる機会が減った ・ 動画を見ている
5 歳幼稚園	・ 子どもが自分で読んで ・ 優先順位が低い ・ 年齢の違うきょうだいだと理解レベルが異なるため一緒には無理

図書館に行く理由は何ですか。

対象	その他意見
2歳保育園等	・子どもが本を借りたいと言うため ・勉強のため ・子どもが本好きだから
5歳保育園等	・子どもが行きたがる ・子どもたちや家族が本好き ・意外と子どもの好みでないと思ってたものが好評だったりする、購入するのとは違い色々遊べて良い ・外出のキッカケ
5歳幼稚園	・子どもの読む本を探すため ・色々なことに興味を持って欲しいから ・子どもが興味のある本を自分で調べて借りたがる

資料4

令和4年度 小学生・中学生等保護者
アンケート実施結果（％表示）

問1：あなたの年齢に当てはまる年代を選んでください。			
	小学2年生 保護者	小学5年生 保護者	中学2年生 保護者
10代	1	2	6
20代	2	0	0
30代	40	24	10
40代	54	64	68
50代	3	10	14
60代以上	0	0	1
無回答	0	0	1
問2：お子さんは、牛久市または牛久市以外の自治体でブックスタートを受けましたか。			
	小学2年生 保護者	小学5年生 保護者	中学2年生 保護者
受けた	72	72	61
受けていない	28	28	39
無回答	0	0	0
問3：ご家庭でお子さんに読み聞かせを行っていますか。			
	小学2年生 保護者	小学5年生 保護者	中学2年生 保護者
している	29	5	1
以前はしていたが、今はしていない	62	82	76
前からしていない	9	13	22
無回答	0	0	1
問4：問3で「以前はしていたが、今はしていない」を選んだ方に伺います。 A) ご家庭で、いつ頃まで読み聞かせをしていましたか。			
	小学2年生 保護者	小学5年生 保護者	中学2年生 保護者
2歳まで	11	12	7
小学校に入学するまで	62	52	58
1年生まで	22	22	18
その他	5	14	17

問４：Ｂ）読み聞かせを辞めた理由は何ですか。（複数回答可）			
	小学２年生 保護者	小学５年生 保護者	中学２年生 保護者
自分が忙しい	45	25	24
子どもが忙しい（習い事など）	10	11	10
面倒	5	7	4
本が用意できない	3	4	2
子どもがひらがなを読めるようになった	26	37	41
子どもから「自分で読むからいい」と言われた	7	9	13
その他	4	7	6
問５：読み聞かせをすることは、大切だと思いますか。			
	小学２年生 保護者	小学５年生 保護者	中学２年生 保護者
大切だと思う	85	87	85
大切だとは思わない	1	1	1
どちらともいえない	14	12	13
無回答	0	0	1
問６：あなたのご家庭は、お子さんがすぐ手にとれる所に本を置いていますか。			
	小学２年生 保護者	小学５年生 保護者	中学２年生 保護者
置いている	96	90	89
置いていない	4	10	11
問７：お子さんは、本を読んでいますか。			
	小学２年生 保護者	小学５年生 保護者	中学２年生 保護者
よく読んでいる	34	39	28
ときどき読んでいる	40	35	38
あまり読んでいない	22	20	26
まったく読んでいない	4	6	8
問８：あなたやご家族の方は、本を読んでいますか。			
	小学２年生 保護者	小学５年生 保護者	中学２年生 保護者
よく読んでいる	20	19	23
ときどき読んでいる	41	44	46
あまり読んでいない	25	25	23
まったく読んでいない	14	12	8

問9：家族で、本について話をすることはありますか。			
	小学2年生 保護者	小学5年生 保護者	中学2年生 保護者
よく話す	11	11	15
ときどき話す	54	49	41
ほとんど話さない	27	33	34
話さない	8	7	10
問10：あなたやご家族の方が、市図書館へ行く頻度を教えてください。			
	小学2年生 保護者	小学5年生 保護者	中学2年生 保護者
月2回以上	16	14	17
1～2カ月に1回	21	16	12
3～5カ月に1回	10	10	10
6カ月～1年に1回	16	22	22
行かない	37	38	38
無回答	0	0	1
問11：問10で「月2回以上」「1～2カ月に1回」を選んだ理由は何ですか。			
	小学2年生 保護者	小学5年生 保護者	中学2年生 保護者
自分の読書のため	31	38	49
子どもに本を読んでほしいから	55	48	39
講演会やおはなし会などのイベントに参加するため	4	4	3
その他	10	10	9
問12：問10で「月2回以上」「1～2カ月に1回」「3～5カ月に1回」「6カ月～1年に1回」を選んだ方に伺います。 あなたやご家族の方が市図書館へ行くとき、お子さんを連れていきますか。			
	小学2年生 保護者	小学5年生 保護者	中学2年生 保護者
いつも連れて行く	62	49	37
ときどき連れて行く	25	35	30
あまり連れて行かない	11	12	24
まったく連れて行かない	2	4	9

問 13：子どもの読書推進のため、市図書館が行っている取り組みの中で、
知っている取り組みを教えてください。

	小学 2 年生 保護者	小学 5 年生 保護者	中学 2 年生 保護者
ブックスタート	19	17	16
赤ちゃん向けおはなし会	15	13	13
幼児・児童向けおはなし会	12	13	13
こども図書館まつり・図書館まつり	9	11	11
映画会	11	10	9
学校図書館ネットワーク	4	6	6
幼稚園・保育園・児童クラブへの本の配送	4	4	4
うちどく	19	17	16
図書館見学	1	2	2
職場体験	2	3	4
ヤングアダルトコーナー	2	2	4
オンラインイベント	2	2	2

問 14：子どもたちがもっと本を読むようになるにはどうすれば良いと思いますか。

	小学 2 年生 保護者	小学 5 年生 保護者	中学 2 年生 保護者
家族が本の読み聞かせをする	15	10	10
家族が本を読む姿を見せる	19	19	18
うちどくをする	5	5	5
図書館・書店へ家族で出かける	20	20	19
図書館や図書室で子どもが読みたいと思える本を増やす	11	14	13
周りの大人が本の面白さを教える	12	12	13
テレビ、ゲーム、パソコン、携帯電話の時間を短くする	12	12	14
その他	4	6	6

小学生・中学生等保護者 記述式意見

ご家庭でいつ頃まで読み聞かせをしていましたか。

対象	その他意見
小2 保護者	・3歳半まで ・ひらがなが読めるようになるまで ・小学4年くらいまで ・3歳下の弟が小学校へ入学するまで ・4歳頃まで ・5歳まで
小5 保護者	・4歳頃まで ・2年生まで ・3年生まで ・子どもが自分で読めるようになるまで ・小学校低学年まで ・半年前くらいまで
中2 保護者	・2年生まで ・3年生まで ・4年生まで ・小学校卒業まで ・小学校低学年まで

読み聞かせを辞めた理由は何ですか。

対象	その他意見
小2 保護者	・携帯を見始めたからだと思う ・理由なく自然に ・音読の宿題を聞く側になった ・子どもの興味が変わった ・子どもが物語より図鑑が好きなため ・自分で読みたい本を選んで、自分から読み進めるようになったから ・親の代わりに弟へ読み聞かせしてくれるようになったから ・仕事で帰りが遅いので、夜に読み聞かせするのか、その分少しでも早く寝かせた方が良いのか非常に迷う。子ども達は寝る前に読むととても喜ぶ。 ・何冊読んでも興味を持ってもらえず、泣くほど嫌がられてまで読まなくても良いのではと思った。
小5 保護者	・読んでと言わなくなったから ・自分で好きな本を読んでいるから ・なんとなく ・寝る前に読んでいたが、一緒に寝なくなった ・コロナ禍で図書館に行きづらくなって止めてしまった ・逆に子どもが読んでくれる ・小学生になったから ・子どもが聞いてくれない
中2 保護者	・子どもが寝るタイミングに時間をとるのが難しくなったため ・子どもが文字数の多い本を好んで読むようになったため ・自分で図書館へ行って本を選んで読む習慣がついた ・寝る時間が違ってきたため

図書館に行く理由は何ですか。

対象	その他意見
小2 保護者	・子どもが行きたがる ・子どもの本を借りるため ・仕事（保育園）やボランティアでの読み聞かせのため ・図書館の居心地が良いから ・読みたい本を子どもに選ばせるため ・学校で借りた本では量が物足りないと感じたとき ・子どもが本が好きだから ・借りた本の返却のため
小5 保護者	・子どもが行きたがる ・子どもの本を借りるため ・仕事で使う資料探しのため ・学校の読み聞かせの会の当番前に本を探すため
中2 保護者	・子どもが行きたがる ・仕事で使用する ・子どもの読書と自主学习 ・小学校の読み聞かせのため ・勉強の資料を探す

子どもたちがもっと本を読むようになるにはどうすれば良いと思いますか。

対象	その他意見
小2 保護者	・図書館探検のように、学年で図書館へ行く日を毎年作る ・大人が子どもたちとの時間をたくさん作る ・身近に色々な本を置く ・まずは子ども本人が本を読む楽しさを見つける機会を作る ・子ども同士での読み聞かせ ・図書館へのアクセスを良くする ・学校で読書の時間を作る ・図書館をもう少し綺麗にしてほしい ・子ども同士の本の面白さのコミュニティを作る ・学年ごとに、読みやすい本、読んでほしい本などを、一覧でホームページに載せる ・学童の時間帯に図書館に行ける仕組み(民間学童の様に送迎)が欲しい(お迎えの場所を図書館にするなど) ・読書したり、おしゃべりしたり、工作したりできる空間にして、図書館改革してほしい(フィンランドのヘルシンキ図書館のような)
小5 保護者	・書店、図書館へのアクセスを良くする ・大型の書店をつくる ・小学校の図書館をもっと自由に使えるようにする ・図書館にマンガを置く ・子どもが興味を持ちそうな本を勧める ・本屋で見えるようなPOPを作る ・手に取れる所に本がある環境をつくる ・どの本が面白いのか分からず選べないらしいので各年代のおすすめを教えてもらったり、子ども同士、おすすめ本を発表したりする場があると良い ・本を借りられる施設を増やす ・興味が持てる本との出会い ・絵本の世界をちょっとリアルに体験出来るイベントは楽しいと思う。(絵本の中のお菓子やお料理を作って食べたりするなど) ・学校での読み聞かせを充実させる ・オンラインで本の試し読みができて、気に入ったら、簡単な操作で図書館の貸出予約ができたり書店で購入予約ができたりするサービスを開発する
中2 保護者	・小学校での(大人やお兄さんお姉さんによる)本の読み聞かせ ・読みたくなるような本を作る ・読書の記録の改善、簡略化 ・綺麗で立地もよく、蔵書が充実していて楽しい図書館だったら行く ・図書館の蔵書をもっと増やしてほしい

関係機関施設等一覧

令和4年9月1日現在

図書館

施設名	住所	電話番号
中央図書館	柏田町3304-1	871-1400
奥野生涯学習センター	島田町2700-1	875-1133
三日月橋生涯学習センター	庄兵衛新田町210-3	874-1340
牛久市役所エスカード出張所（図書カウンター）	牛久町280	872-8234
リフレ図書カウンター	ひたち野東1-33-6	
二小学区地区社会福祉協議会	田宮町366-1	801-1294

市立保育園

施設名	住所	電話番号
栄町保育園	神谷3-8-1	873-0863
下根保育園	下根町552-1	830-7751
つつじが丘保育園	田宮町175	873-0140
向原保育園	小坂町3388-4	873-1440

私立保育園

施設名	住所	電話番号
牛久保育園	東端穴町869-1	843-6966
牛久さくら保育園	下根町1371-2	869-9557
牛久ひかり保育園	下根町990-14	828-8105
牛久ふれあい保育園	牛久町1606	873-9560
牛久みらい保育園	東端穴町1260-11	874-3993
牛久めぐみ保育園	下根町774-1	893-2616
奥野さくらふれあい保育園	久野町725	875-0056
上町ふれあい保育園	牛久町2619	872-0358
つつじが丘ふたばランド保育園	田宮町199-1	871-6928
ひたち野うしく保育園つくしんぼ	東端穴町1286-1	886-9773
ふたばランド保育園	中央5-5-2	873-5528

市立幼稚園

施設名	住所	電話番号
第一幼稚園	東端穴町1341-6	875-9072
第二幼稚園	牛久町2566-1	873-4694

私立幼稚園

施設名	住所	電話番号
牛久幼稚園	上柏田3-8-3	874-2246
ひたち野牛久幼稚園	東端穴町827-2	843-1120

私立認定こども園

施設名	住所	電話番号
うしく文化認定こども園	遠山町 6 4 3 - 2	8 7 3 - 8 2 5 3
認定こども園こばと幼稚園	猪子町 8 2 8 - 3 3	8 7 3 - 0 1 4 7
認定こども園フレンド幼稚園	柏田町 3 4 8 9 - 2	8 7 3 - 7 4 3 5

市立小学校

施設名	住所	電話番号
牛久小学校	牛久町 2 6 1 9	8 7 2 - 0 0 0 4
岡田小学校	岡見町 2 0 5 0 - 2	8 7 2 - 0 3 0 4
牛久第二小学校	田宮町 5 3 0	8 7 3 - 1 4 3 8
中根小学校	中根町 2 3 5	8 7 3 - 4 7 4 9
向台小学校	牛久町 1 6 0 6	8 7 3 - 7 4 7 1
神谷小学校	神谷 4 - 1 4	8 7 3 - 6 1 5 2
ひたち野うしく小学校	ひたち野西 2 - 1 1	8 7 3 - 1 7 1 0

市立中学校

施設名	住所	電話番号
牛久第一中学校	柏田町 1 0 1 7	8 7 2 - 0 3 1 0
牛久第三中学校	城中町 1 8 3 0 - 1	8 7 3 - 4 6 9 9
下根中学校	下根町 8 2 9	8 7 3 - 6 1 5 3
牛久南中学校	さくら台 1 - 7 3 - 1	8 7 3 - 5 8 8 6
ひたち野うしく中学校	東端穴町 1 3 4 1 - 1	8 7 5 - 8 5 9 5

市立義務教育学校

施設名	住所	電話番号
おくの義務教育学校 北校舎	久野町 7 2 5	8 7 5 - 0 0 2 4
おくの義務教育学校 南校舎	久野町 6 7 0 - 1	8 7 5 - 0 0 5 5

私立中学校

施設名	住所	電話番号
東洋大学附属牛久中学校	柏田町 1 3 6 0 - 2	8 7 2 - 0 3 5 0

高等学校

施設名	住所	電話番号
県立 牛久高等学校	岡見町 2 0 8 1 - 1	8 7 3 - 6 2 2 0
県立 牛久栄進高等学校	東端穴町 8 7 6	8 4 3 - 3 1 1 0
私立 東洋大学附属牛久高等学校	柏田町 1 3 6 0 - 2	8 7 2 - 0 3 5 0

資料 6

子どもの読書活動の推進に関する法律

平成十三年十二月十二日号外法律第百五十四号

〔文部科学大臣署名〕

子どもの読書活動の推進に関する法律をここに公布する。

子どもの読書活動の推進に関する法律

（目的）

第一条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

（基本理念）

第二条 子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

（国の責務）

第三条 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

（地方公共団体の責務）

第四条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

（事業者の努力）

第五条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

（保護者の役割）

第六条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

（関係機関等との連携強化）

第七条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

第八条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

(都道府県子ども読書活動推進計画等)

第九条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

(子ども読書の日)

第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。

3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

(財政上の措置等)

第十一条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

資料 7

○牛久市図書館協議会委員名簿

選出区分	役 職 名	氏 名
社 会 教 育 の 関 係 者	牛久市子ども会育成会理事	佐々江 健治
	読み聞かせボランティア代表	小林 宏恵
	ブックスタートボランティア代表	庄司 京子
学 校 教 育 の 関 係 者	学校長会（牛久小学校校長）	大高 稔子
	学 校 長 会 （ 下 根 中 学 校 校 長 ）	立花 勝行
家 庭 教 育 の 関 係 者	元牛久市PTA連絡協議会 会 長	加藤 壮次郎
学 識 経 験 者	筑 波 大 学 教 授	鈴木 佳苗
	元東洋大学附属牛久高等学校 司 書	関根 順子
	元牛久第二小学校校長	鶴巻 幸子

○牛久市子ども読書活動推進計画（第3次）策定ワーキング委員名簿

所 属	職 名	氏 名
岡 田 小 学 校	司 書 教 諭	川崎 好代
下 根 中 学 校		倉持 結衣
牛 久 第 二 小 学 校	学 校 司 書	岡野 美樹
ひたち野うしく中学校		青木 俊和
おはなしとんとん	読 み 聞 か せ 団 体 代 表	小林 宏恵
指 導 課	指 導 主 事	土井 志穂
中 央 図 書 館	事 務 職 員	池田 健一
		諏訪部 なずな
	司 書	田村 千智
		木津 美紀



牛久市子ども読書活動推進計画（第3次）

発 行 令和5年（2023年） 3月
編集・発行 牛久市教育委員会
主 管 課 牛久市教育委員会 中央図書館
〒300-1211
茨城県牛久市柏田町3304-1
電話 029-871-1400
FAX 029-873-5374
Email library@city.ushiku.ibaraki.jp